

令和3年度 社会福祉法人啓和会 事業報告

I 法人本部 事業報告

社会福祉法人啓和会は、令和3年度事業計画に基づき、設立の理念と公益性を踏まえ、多様化する福祉ニーズに応えられるよう、提供するサービスの質の向上に努めました。さらに事業経営の透明性の維持のため法令を遵守し、社会情勢の変化に柔軟に対応できる経営姿勢で事業基盤の強化を図りつつ、次に掲げる事業の経営を行いました。

社会福祉法人啓和会 運営状況一覧

	名称	種別	事業内容	定員数	所在地	事業種別
法人運営	法人本部				久喜市六万部 1435	
	久喜けいわ	障害者支援施設	生活介護	67	久喜市六万部 1435	第一種
			就労移行支援	6	久喜市六万部 1445	
			就労継続支援 B 型	32		
			施設入所支援	54	久喜市六万部 1435	第二種
			短期入所	6		公益
			日中一時支援			
	グループホーム清久	グループホーム	共同生活援助	44	久喜市上清久 1524-1	第二種
	清久			(7)		
	上清久			(4)		
	ハイツ清久			(3)	久喜市上清久 667-5	
	こすもす			(4)	久喜市葛梅 446-12	
	おぎそね			(7)	久喜市久喜東 4-20-13	
	サテライトこぎそね			(1)	久喜市久喜西 187-15	
	こがらい			(7)	久喜市六万部 780-2	
	しらはた			(7)	久喜市上清久字白幡 628-1	
	うちや			(4)	久喜市下早見 1769-1	
				短期入所	1	

	ワークハウスコムラード	障害福祉サービス事業所	就労継続支援 B 型	20	久喜市下早見 1769-6	第二種
法人運営	相談支援センター	相談支援事業所	相談支援		久喜市青毛 753-1	第二種
			障害児等療育支援			公益
			巡回支援専門員整備事業			
			久喜市障害者就労支援			
			障害者就業・生活支援			
			久喜市基幹相談支援			
障害者生活支援センターさよく	特定相談支援事業所	相談支援		久喜市六万部 1445	第二種	
久喜市指定管理受託運営	久喜市いちょうの木	障害福祉サービス事業所	生活介護	40	久喜市所久喜 835-1	第二種
			日中一時支援			公益
	久喜市ゆう・あい	障害福祉サービス事業所	生活介護	20	久喜市上内 327-6	第二種
			日中一時支援			公益
	久喜市あゆみの郷	障害福祉サービス事業所	生活介護	15	久喜市東大輪 2273-1	第二種
			就労継続支援 B 型	15		公益
			日中一時支援			
	久喜市立のぞみ園	障害児通所支援事業	児童発達支援事業	10	久喜市北青柳 1331	第二種

(1) 理事会・評議員会の開催

令和 4 年 3 月 31 日現在

日 時	審議事項・目的事項	場 所	出席状況
令和 3 年 5 月 20 日 (木) 監事監査	1 令和 3 年度 理事の業務執行状況 2 令和 3 年度 財産の状況	久喜けいわ	監事 1/2 1 名出席 1 名書面
令和 3 年 5 月 31 日 (月) (決議があったものとみなされた日) 第 115 回理事会	議 題 (決議の省略) 1 令和 2 年 4 月 1 日から令和 3 年 3 月 31 日までの事業報告の承認の件 2 令和 2 年 4 月 1 日から令和 3 年 3 月 31 日までの計算書類及び財産目録の承認の件 3 理事候補者 9 名の選出の件 4 監事候補者 2 名の選出の件 5 評議員選任・解任委員の選任の件 6 評議員候補者 10 名の選出の件 7 第 2 回評議員選任・解任委員会の招集の決定		

	<p>の件</p> <p>8 評議員会の決議の省略及び評議員会への報告の省略の件</p> <p>報告事項（報告の省略）</p> <p>1 社会福祉充実残額の件</p> <p>2 監督官庁が実施した検査結果の件</p>		
<p>令和3年6月22日（木）</p> <p>（決議があったものとみなされた日）</p> <p>第74回評議員会</p>	<p>報告事項（報告の省略）</p> <p>1 令和2年4月1日から令和3年3月31日までの事業報告の内容報告の件</p> <p>2 監督官庁が実施した検査又は調査結果の件</p> <p>3 社会福祉充実残額の件</p> <p>決議事項（決議の省略）</p> <p>1 令和2年4月1日から令和3年3月31日までの計算書類及び財産目録の承認の件</p> <p>2 理事9名の選任の件</p> <p>3 監事2名の選任の件</p>		
<p>令和3年6月22日（木）</p> <p>第116回理事会</p>	<p>報告事項</p> <p>1 令和3年6月開催定時評議員会の審議結果について</p> <p>2 社会福祉法人啓和会評議員の選任について</p> <p>議 題</p> <p>1 理事長及び状う理事の選定の件</p> <p>2 業務執行理事の業務分掌決定及び職員職務の委嘱の件</p> <p>3 常務理事の報酬等の額決定の件</p> <p>4 相談役委嘱の件</p>	<p>久喜けいわ</p>	<p>理事</p> <p>9/9</p> <p>監事</p> <p>2/2</p>
<p>令和3年9月16日（水）</p> <p>第117回理事会</p>	<p>報告事項1</p> <p>1 久喜市あゆみの郷で発生した虐待事案の件</p> <p>議 題</p> <p>1 幹部職員の処分の承認の件</p> <p>2 久喜けいわ給食業務委託契約の承認の件</p> <p>3 久喜けいわ外壁修繕工事契約の承認の件</p> <p>4 久喜けいわ短期入所運営規程の一部改正の件</p> <p>5 グループホーム清久短期入所運営規程の一部改正の件</p> <p>6 久喜市障がい者生活支援センターきらら運営規程の一部改正の件</p> <p>7 障害者生活支援センターきよく運営規程の</p>	<p>久喜けいわ</p>	<p>理事</p> <p>9/9</p> <p>監事</p> <p>2/2</p>

	<p>一部改正の件</p> <p>8 個人情報管理規程の一部改正の件</p> <p>報告事項 2</p> <p>2 理事長及び業務執行理事の職務執行状況報告の件</p> <p>3 監督官庁が実施した検査又は調査結果の件</p>		
<p>令和3年11月26日(金)</p> <p>第118回理事会</p> <p>(決議があったものとみなされた日)</p>	<p>議 題</p> <p>1 役員賠償責任保険(マネジメントリスクプロテクション保険)の契約更新の承認の件</p> <p>報告事項 1</p> <p>1 監督官庁が実施した検査又は調査結果の件</p> <p>2 役員から報告を求められた事項の件</p>	久喜けいわ	<p>理事</p> <p>9/9</p> <p>監事</p> <p>2/2</p>
<p>令和4年3月25日(金)</p> <p>第119回理事会</p>	<p>議 題</p> <p>1 幹部職員人事の承認の件</p> <p>2 久喜市いちょうの木給食業務委託契約の承認の件</p> <p>3 令和3年度第1回補正予算(案)の承認の件</p> <p>4 令和4年度事業計画(案)の承認の件</p> <p>5 令和4年度収支予算(案)の承認の件</p> <p>6 定款施行細則の一部改正の件</p> <p>7 育児休業及び介護休業等に関する規程の一部改正の件</p> <p>8 久喜けいわ運営規程の一部改正の件</p> <p>9 久喜けいわ短期入所運営規程の一部改正の件</p> <p>10 グループホーム清久運営規程の一部改正の件</p> <p>11 グループホーム清久短期入所運営規程の一部改正の件</p> <p>12 久喜市障がい者生活支援センターきらら運営規程の一部改正の件</p> <p>13 障害者生活支援センターきらら運営規程の一部改正の件</p> <p>14 ワークハウスコムロード運営規程の一部改正の件</p> <p>15 久喜市いちょうの木運営規程の一部改正の件</p> <p>16 久喜市立のぞみ園運営規程の一部改正の件</p> <p>17 久喜市ゆう・あい運営規程の一部改正の件</p> <p>18 久喜市あゆみの郷運営規程の一部改正の件</p> <p>19 役員賠償責任保険(マネジメントリスクプ</p>	久喜けいわ	<p>理事</p> <p>9/9</p> <p>監事</p> <p>2/2</p>

	ロテクション保険)の解約及び契約の承認の件		
	報告事項		
	1 理事長及び業務執行理事の職務執行状況報告の件		
	2 監督官庁が実施した検査又は調査結果の件		

(2) 戦略的な法人運営

ア 新たな人事制度の推進

令和3年度より、限定正職員制度を導入しました。限定正職員制度について説明会を開き全職員に周知し、12月15日に対象職員77名に職員区分「無限定正職員」「定時勤務限定正職員」「職種限定正職員」の選択を行っていただきました。「無限定正職員」を選択した職員は65名、「定時限定正職員」を選択した職員は10名、「職種限定正職員」を選択した職員は2名となりました。

イ 経営財源確保等

(ア)幹部会議等で各事業所の利用率と収支状況を定期的に確認しました。利用率は例年通りとなりましたが、新たな加算取得等により収支差額UPにつながりました。

(イ)久喜市ゆう・あいで重度障害者支援加算の取得を開始し、大幅な増収となりました。

(ウ)独立行政法人福祉医療機構借入金の償還状況は以下の通りです。

借入年度 借入先	借入額	期首残高	令和3年度 償還金	借入残高
平成18年度 福祉医療機構 (就労継続)	25,000,000	7,860,000	元金 1,310,000 利子 136,895	6,550,000
平成27年度 福祉医療機構 (GH清久)	10,000,000	8,016,000	元金 576,000 利子 42,636	7,440,000
合計	35,000,000	15,876,000	1,886,000	13,990,000

ウ 今後の事業構想

(ア)久喜けいわ建替えについて、専門家を交え具体的な基本構想について協議を始めました。まだ、基本構想が固まらず、具体的計画策定には至りませんでした。

(イ)建物調査により、久喜けいわ生活棟の外壁及び天井において、機能・性能の異常が確認され、修繕工事的必要性が指摘されたため、生活棟の外壁工事及び天井の修繕工事が施工されました。

(ウ)久喜市指定管理施設の民間譲渡に向けて、久喜市と協議をしておりましたが、

令和 4 年 2 月に市のホームページ等において「民間譲渡取りやめ、指定管理による運営を継続」の記事が掲載されました。その後、久喜市から正式に民間譲渡取りやめに至った経緯について説明を受けました。話の内容から 3 年間は現状の指定管理での運営が続けられることとなりましたが、令和 6 年度以降の方針については不透明な状況です。

(エ) 法人内の ICT 環境について整備は進められませんでした。

(3) 働きやすい職場作り

- ア 年次有給休暇の取得を促進し、全事業所で年次有給休暇 5 日以上取得しました。また、業務中、新型コロナウイルスに感染した職員の療養期間は、職務専念義務免除とし年次有給休暇とは別に休めるよう配慮しました。
- イ 職員意向調査を実施しました。可能な範囲で職員の意向が反映されるように配慮し、モチベーションの向上に努めました。調査回答より過半数以上の職員が「働きやすい」と回答しています。
- ウ 人事評価を賞与と昇給の処遇に一部反映しました。より正確な評価ができるように評価シートを改訂し、評価項目を増やしましたが、改訂初年度ということもあり、試行的な運用となりました。

(4) 人材採用

- ア 新型コロナウイルス感染防止のため、実習生の受け入れは制限したため、実習生から採用につながるケースはありませんでした。
- イ フェイスブックやインスタグラム等 SNS での更新頻度を高めました。ホームページの閲覧件数が増え、ホームページを見て求人に応募される方が増えました。
- ウ 新型コロナウイルスの流行に伴い、学校訪問や合同面接会の参加ができませんでした。代わりにインターネット求人の強化を図ったところ、中途採用に効果がありましたが、新卒の獲得が難しく令和 3 年度は 2 名の採用となりました。

(5) 人材育成

- ア 新型コロナウイルスの流行のため、対面での研修を行うことができず、研修機会は大幅に減少しました。新たな研修体系を作成しましたので、来年度からオンライン等を有効活用し、研修体系に基づく継続的な研修を実施する予定です。
- イ 職員の資質向上を目的に、令和 4 年 1 月より、資格取得支援制度を創設しました。国家資格（社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士）の資格取得のために必要な費用（受講料、受験料）の半額（上限 10 万円）補助と受験日、受講日の職務免除（上限 3 日）を行う制度です。社会福祉士合格者 2 名が制度を活用しました。
- ウ 人事評価の評価者の育成は十分にできずでしたが、評価者が複数で部下を評価する仕組みを導入し、評価者の偏りの軽減を図りました。

(6) 法人本部機能の再構築

- ア 世代交代に向けて、法人運営及び財務を担える本部職員の育成に努めました。
- イ 法人本部職員の役割を整理し、円滑に業務を進めることができました。
- ウ 法人本部が中心となり委員会を設置し、部署をまたいだ横断的なテーマや重要なテーマについて協議しました。令和3年度は、虐待防止委員会、感染症対策委員会を中心に活動を行いました。

(7) 経営会議等の開催

- ア 新型コロナウイルスの流行に伴い、対面での幹部会議はほぼ実施できず、リモートでの幹部会議を行いました。リモート会議は最初操作等に戸惑うこともありましたが徐々に慣れ、新型コロナウイルスが流行しても継続して会議を行うことができました。
- イ 必要に応じて少人数の幹部職員で集まり、課題解決に向けた協議を行いました。

(8) 災害対策の充実強化

- ア 事業継続計画（BCP）の策定までは至りませんでした。令和6年度に計画の策定が義務化されるので、引き続き事業継続計画の策定に向けて取り組みます。
- イ 防火責任者が福祉避難所の開設訓練に参加し、防災用具の使用訓練等の研修を受講しました。
- ウ 地震・火災だけでなく、水害や夜間を想定した訓練を実施しました。

(9) 虐待防止への取り組み

- ア 新型コロナウイルスの影響もあり、法人全体で虐待防止活動を行うことは難しい状況でした。ただし、虐待事案発生後、毎月虐待防止委員会を開催するとともに、虐待発生施設に本部職員が常駐し、虐待防止の取組強化に努めました。
- イ 虐待防止マニュアル、職員行動規範の読み合わせを行い、周知徹底しました。
- ウ 身体拘束等の適正化のための対策を検討する委員会は設置できませんでした。令和4年度より義務化されるため、身体拘束適正化委員会を設置する予定です。

(10) 社会貢献事業の取り組み

- ア 新型コロナウイルスの感染拡大により、地域ニーズは把握できず、新たな地域貢献活動の具体案は検討できませんでした。
- イ 指定緊急避難場所として啓和会の施設を開放することはありませんでした。
- ウ 彩の国あんしんセーフティネット事業については、他制度の充実により年々件数が減少傾向にあり今回も支援依頼0件でした。
- エ 久喜市フレンドシップ学級運営委員として職員5名の派遣体制を作りましたが、活動はありませんでした。
- オ 新型コロナウイルスの影響で地域行事やイベントがほとんど中止となり、地域との交流は大幅に減少しました。「ふれあいの家白幡」は、婦人会活動など地域で有効活用していただきました。

(1 1) 広報活動の充実

- ア 新型コロナウイルスの影響で啓和会後援会の活動はほとんどできず、総会も中止となり、広報誌の発行も行えませんでした。
- イ 法人のホームページを活動紹介、情報公開、人材確保、利用者確保等で活用しました。

Ⅱ 障害者支援施設 久喜けいわ

令和3年度も、昨年と同様にコロナ感染症の対応に追われる1年となりました。埼玉県における緊急事態宣言の発令や、法人内で起きた施設内集団感染により、事業計画に掲げた内容はかなりの部分を変更せざるを得なくなり、利用者の生活もコロナの感染状況によりかなり窮屈なものになってしまったと感じています。

そのような状況の中で実施した事業内容は以下のとおりです。

1 実施事業

(1) 定員と利用率

令和4年3月31日現在

事業名	定員	現員	利用率
生活介護	定員67名	現員69名	98.0%
施設入所支援	定員54名	現員54名	99.6%
就労移行支援	定員6名	現員7名	105.8%
就労継続支援	定員32名	現員39名	102.7%
短期入所支援	定員6名		82.1%

令和3年度の新規利用契約者数

生活介護：2名（短期入所利用者）

就労移行：4名

就労継続B型：2名

(2) 職員体制

職種	人数	備考
施設長	1	
総務課長	1	
事務員	4	障害者雇用1名
支援課長	2	生活1名 就労1名
主査	1	生活
主任	7	生活介護・施設入所5名 就労移行・就労継続B型2名
生活支援員	36	生活介護33名 就労移行1名 就労継続B型2名
職業指導員	4	就労移行1名 就労継続B型3名
就労支援員	1	就労移行1名
目標工賃達成指導員	1	就労継続B型1名
清掃、営繕	2	
洗濯、清掃	2	障害者雇用2名
看護師	3	常勤1名 非常勤2名
管理栄養士	2	
計	67	

2 重点実施事項（詳細は、「3事業報告」の項目内に記載）

(1) 権利擁護

ア 権利擁護意識を高めるため、まずは利用者への呼称について「さん付け」で呼ぶことを徹底しました。職員同士で注意し合える雰囲気ができ、利用者への接

し方に対する意識が高まりました。

イ 現場職員による権利意識向上のための活動として、「プロジェクトK」を立ち上げました。「利用者と職員が幸せに暮らすためには？」をテーマに定期的に意見交換し、利用者や職員の声、権利擁護に関する情報などを掲載した新聞の発行を行っています。

(2) 高齢化、重度化対策

コロナの感染拡大に伴い、予防対策を中心とした支援内容が優先となりました。施設内感染の発生後は、感染により重度化してしまった利用者に対し、個々の状態に合わせた医療ケアや介護ケアを実施しています。

(3) リスク管理

コロナを含めた感染症と自然災害に対する対策強化を中心に進めました。

(4) 就労継続支援B型の工賃向上

新規作業種を増やしたり、作業手順や設備配置を工夫して効率化を図りましたが、コロナの影響により受託作業の全体量が減り、工賃も減額となりました。

3 事業報告

(1) 利用者支援

ア 生活介護、施設入所支援

(ア) 高齢化、重度化対策

- ・理学療法士による個別療法を取り入れ、週に1～2回実施しました。専門性の高い具体的なアドバイスは職員の知識と意識を高め、身体機能維持に必要な訓練方法や個別プログラムの作成に高い効果を生んでいます。
- ・咀嚼機能の低下により誤嚥を起こしやすくなっている利用者について、言語聴覚士による嚥下機能の状態確認を行いました。ペースト食、ムース食、水分のトロミなど、個々の状態に合わせた食事形態を提供し、見た目や味のおいしさを保ちながら安全に食事が摂れる工夫を行っています。
- ・在宅酸素やストーマ(人工肛門)が必要になった利用者の介助方法について、担当病院の看護師や医療器具メーカーの専門業者から直接指導を受け、職員間で実地練習を重ねました。利用者の移乗や介護方法についても細かく確認を行うなど、介護技術の向上に努めています。

(イ) 生活支援

- ・外出などの余暇活動や施設イベントは、感染リスクを避けながらの実施となりました。外出が少なくなった分、テイクアウトの食事やおやつ作りなどを楽しみました。施設内イベントとしては、8月に「けいわオリンピック2021」、11月に「ホラーパーティー」を実施しました。
- ・各棟話し合いによる生活支援マニュアルの見直しを行いました。全体として感染対策を優先とした支援内容となりました。
- ・地域生活に向けた取り組みは、コロナの感染防止のため、グループホームなど事業所間の行き来を制限したので実施できませんでした。

イ 就労移行支援

- (ア) 施設内作業や企業実習では、就労に大切な挨拶や「報・連・相」が習得でき

るよう、個々に働きかけました。

- (イ) 隔週木曜日の午後に座学の時間を設け、履歴書の書き方、スマホの使い方、面接の受け方などを学び、実践を交えて練習しました。また、実際に就労した先輩職員の声を聞いたり、建物だけですがグループホーム見学も行って、自立への意識を高めてもらうよう取り組みました。
- (ウ) 利用者1名がリレーションシップセンター久喜を利用して就労アセスメントを受けました。その後、利用者の適性を把握した上で企業での短期訓練を実施しました。企業側の都合で就労には至りませんでした。本人なりに自信が付き、今後の活動に向けて良い兆しが見られています。
- (エ) 年度内に利用者2名が一般就労しました。就労に向けた通勤支援、面接同行を行い、就労後には巡回や本人面談を行って職場定着に努めています。

ウ 就労継続支援B型

- (ア) コロナの影響で受託作業が安定せず、まったく作業が入ってこない期間があるなど、全体として作業量が減少しました。受託作業先を新たに3社増やして取り組みましたが、月平均15,000円を目標としていた作業工賃は12,000円程度となりました。
- (イ) 味噌事業では、コロナの影響によりイベントでの販売数は少なくなりましたが、8月に久喜市学校給食センターが開設したことで、今まで取引のなかった小中学校でもけいわ味噌を食して頂くことになり、学校給食全体の納品量は前年度を若干上回りました。来年度はさらに増量する見込みです。
- (ウ) 食品加工の技能向上のため、食品衛生責任者養成講習に職員2名、圧力容器取扱作業主任者技能講習に職員1名が受講しました。
- (エ) 利用者の加齢に伴う健康面のリスクやコロナ禍による運動不足を解消するため、午前の作業前に毎朝、全体で軽運動を実施しました。また、機能訓練での活動を増やしたり、日常生活動作の中で体を使う工夫をしています。
- (オ) コロナの感染防止のため、クラブ活動や行事はほとんど実施できませんでした。土曜開所では、利用者から希望をとってデリバリーの食事を楽しみました。

エ 虐待防止対策

- (ア) セルフチェックシートによる振り返りと虐待防止に関する職員アンケートを実施しました。アンケートでは強度行動障害への対応に苦慮しているという意見が多数あったため、今後、現場に即した内部研修を実施する予定です。
- (イ) けいわの中のグレーゾーンについて議論する場を設けました。自分たちの支援を振り返り、客観的に見つめなおす良い機会となりました。
- (ウ) 身体拘束に関しては、ヘッドギアやベッドの柵、ミトンの使用など、利用者の安全確保のために実施しているケースについて、ガイドラインの内容や適切な対応が行えているかなどの確認を行いました。

(2) 働きやすい職場づくり

ア 業務改善

- (ア) 施設内消毒や検温など、感染予防のための業務が増えたため、日課の内容や実施時間を見直し、職員配置を変更して対応しました。

- (イ)夜間帯の職員配置を1名増員し、業務の負担軽減を図りました。
- (ウ)職員が濃厚接触者となって勤務できない状況が度々おきたため、状況に応じて勤務変更することも多く、対応に苦慮しました。

イ ワークライフバランス実現に向けた休暇の取得促進

希望する職員には3日以上の子休取得ができるように勤務を組み、希望者全員に対応することができました。

ウ モチベーションの向上

- (ア)キャリアパスを通じ職員面談を行いました。各棟の上司と面談し、日々の業務を振り返る機会としました。
- (イ)毎月勤務表作成前に公休日について職員から希望を聞き、できる限り都合に合わせた休みがとれるよう配慮しました。

(3) 人材育成

ア 実施、参加した主な研修

内部	新任職員研修、虐待防止研修、グリーンゾーンにせまろう、ケース検討発表会
外部	新型コロナウイルス感染症対策応用研修、風水災リスクマネジメントセミナー、虐待防止研修、摂食・嚥下研修、口腔機能向上

(ア)外部研修については、コロナの影響でZOOM研修が多くなり、対面での研修参加の機会は減りました。内部研修は少人数で距離をとって実施するようにしましたが回数は減っています。

(イ)入所利用者を対象にしたケース検討発表会を実施しました。支援員が3~4人のチームになり、各班で一人の利用者について話し合い、結果を発表し合いました。関係者への聞き取りやケース記録の見直しを行うことで、本人像により近づくことができ、利用者一人一人に向き合う姿勢を改めて学ぶ機会となりました。

イ 会議の実施

利用者支援での課題や職員それぞれの悩みなどを話し合える場として、各棟会議を重視しました。少人数での会議は積極的な意見交換の場となっています。

ウ 新任・中堅育成プログラム

- (ア)2名の新卒者に対して、法人の理念や障がい支援についての基本的な考え方などについて指導しました。コロナの感染防止のため、他事業所の見学や合同研修などは実施できませんでした。
- (イ)新人職員に関しては、個別面談のほか定期的に話を聞くようにし、悩みや困り事をため込まないよう配慮しました。

(4) リスク管理

ア 健康管理

(ア)通常の健康管理、病気予防に加え、新たに作成したコロナの感染防止対策を実施した結果、インフルエンザや胃腸炎などの感染症の発症はありません

でした。

- (イ)密を避けるため、今年度の健康診断は3回に分けて実施しました。
- (ウ)協力医療機関である大和田歯科医院に協力を頂き、月に2回施設内での歯科治療を実施しました。利用者の歯の健康増進を継続して行なうことができました。
- (エ)骨折、ストーマ装着、誤嚥性肺炎等により、5名の利用者がのべ90日間入院しました。コロナ感染により入院する方はいませんでした。

イ 災害対策

- (ア)通常の避難訓練のほか、地震・台風・水害を想定した避難訓練を2回実施しました。大地震や床上浸水等の被害を想定し、2階への移動訓練、狭い空間での待機訓練を2回に分けて実施し、利用者の様子を観察しました。今後もさまざまな状況を想定した訓練を重ね、有事に備えていきます。
- (イ)食料品やコロナ対策用の備蓄品について定期的な確認を行い、有事の際に物品が不足しないよう注意しました。

ウ 環境整備

危険箇所についての定期チェックを行い、修繕箇所の早期対応に努めました。

エ 個人情報管理

個人情報の取扱いについては、鍵やパスワードなどの使用を徹底して保管管理するほか、職員同士の申し送り時にも細心の注意を払うことを周知徹底し、意識の向上に努めました。

(5) 感染症防止対策

感染症防止対策として、1年をとおし以下のことを徹底して行いました。

- (ア)1日3回の検温、手指消毒、施設内の消毒と換気
- (イ)マスク、フェイスシールドの着用
- (ウ)入所利用者と通所利用者との活動場所の変更
- (エ)新規短期入所、日中一時支援の受け入れ制限
- (オ)ボランティア、実習生の受け入れ制限
- (カ)帰宅や面会の制限
- (キ)活動内容の変更
- (ク)アクリル板やカーテン等での仕切り
- (ケ)事業所間の行き来の制限
- (コ)職員の勤務体制の変更
- (ク)感染防止研修の実施 など

(6) 地域交流

地域との交流

- (ア)コロナの感染防止のため、啓和まつりは中止となりました。地域行事もほとんどが中止され、地域との交流を行うことは難しい1年でした。
- (イ)実習生の受け入れは、コロナの感染防止策を講じた上で3月に4名受け入れました。ボランティアは、利用者に直接対面することがない範囲で受け入れました。菜の花会さんには衣類補修、清久婦人会さんには除草作業で協力頂き

ました。

(7) 事業運営

利用率の目標値

- (ア)入所利用者に退所者はおらず、コロナの影響で帰宅もほとんどありませんでしたが、入院者がいたため年間利用率は99.6%となりました。
- (イ)生活介護では、コロナの感染状況により通所を自粛する利用者もいたため、98%の利用率となりました。
- (ウ)就労移行の利用者を2名就職に繋げました。また、就労支援センターとの合同会議を定期的に行い、年度途中で新規の利用者2名と利用契約を行いました。就労移行、就労継続B型ともに定員以上の利用があり、100%を超える利用率となりました。

コロナについては、利用者も職員も感染防止策を講じながら生活を続けてきましたが、1月24日より利用者5名職員6名のクラスターが発生しました。利用者については、施設内をゾーニングし約2週間隔離対応を行いました。職員も利用者も重症化することなく回復し、3月には新井病院の協力で利用者、職員ともに3回目のワクチン接種を受けることができました。

Ⅲ グループホーム清久 事業報告

令和3年度 事業計画に基づいて以下の事業を行いました。

1 実施事業

(1) 定員と利用率

令和4年3月31日現在

事業名	定員	利用率
共同生活援助	定員44名	87.2%
短期入所	定員1名	35.1%

(2) 入居者の状況

ア 定員内訳

()カッコは短期入所の人数

	清久	ハイツ	上清久	こがらい	おぎそね	こすもす	うちや	しらはた	こぎそね	合計
定員	7名	3名	4名	7名	7名	4名	4名 (1名)	7名	1名	44名 (1名)
現員	5名	3名	4名	6名	7名	4名	4名 (1名)	6名	1名	40名 (1名)

イ 男女比・年齢構成

	19歳～29歳	30歳～39歳	40歳～49歳	50歳～59歳	60歳～69歳	70歳～79歳	80歳以上	合計
男性	2	8	4	8	1	3	1	27
女性	0	0	1	4	4	4	0	13

ウ 平均年齢

	平均年齢(男女別)	平均年齢(全体)
男性	48.3歳	55.9歳
女性	63.4歳	

エ 障害支援区分

	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	計
男性	1	6	4	11	4	1	27
女性	0	0	4	4	5	0	13
計	1	6	8	15	9	1	40

オ 療育手帳・身体障害者手帳・精神障害者保健福祉手帳の所持状況

	療育手帳					身体障害者手帳				精神保健手帳		
	㊦	A	B	C	なし	1級	2級	3級	なし	1級	2級	なし
男性	1	7	15	3	1	0	1	0	26	1	2	23
女性	1	8	3	1	0	0	0	1	12	1	1	11
計	2	15	18	4	1	0	1	1	38	2	3	34

カ 日中活動場所

< 一般就労 >

会社名	仕事内容	人数
(株)ウィズウェイストジャパン	リサイクル選別	2人
(株)松勘工業	武道具生産	1人
(福)久喜けいわ	洗濯・清掃・入浴補助	1人
(株)流通サービス	物流・箱出し	2人
(株)吉野家ホールディングス	食肉加工	1人
(株)アイワイフーズ	食品製造	1人
(株)中村屋	食品製造	1人
(株)グリーンクロス	安全対策レンタル用品洗浄	1人

< 福祉事業所 >

事業所名	サービス内容	人数
久喜けいわ	生活介護	5人
久喜けいわ	就労継続B型	13人
コムラード	就労継続B型	3人
久喜市 あゆみの郷	生活介護	3人
久喜市 あゆみの郷	就労継続B型	1人
久喜市 いちょうの木	生活介護	1人
宮代町 ひまわりの家	生活介護	1人
白岡市 めぐみの里	就労継続B型	1人
宮代町 アバンティ	就労移行	1人
久喜市 偕楽荘	高齢者デイサービス	1人(久喜市あゆみの郷と併用利用)
久喜市 鶴寿荘	高齢者デイサービス	2人(久喜けいわと併用利用)

(3) 職員体制

職 種	配置人数	備 考
所長	1	サービス管理責任者兼務
生活支援員	9	サービス管理責任者兼務(1名) 計画相談兼務(2名) 事務員兼務(1名) 看護師(1名) (常勤6名、非常勤3名)
世話人	26	久喜けいわ事務員兼務(1名) 夜勤勤務のみ(6名) (常勤2名、非常勤24名)
計	35	

2 重点実施事項

(1) 高齢化、重度化対策

60歳以上の利用者が3割を占めるようになり食事・入浴・移動など、今ま

でとは異なる課題が多く見られるようになりました。高齢者施設の職員やケアマネジャーの協力も得ながら、本人に適した支援方法を検討しました。

(2) 権利擁護、虐待防止の意識向上

定期的に虐待防止チェックリストを活用し、日々の支援を振り返りました。また会議にて行動規範や虐待防止マニュアルの読み合わせを行い、権利擁護について、意識の向上を図りました。

(3) 緊急時の対応

夜間における応援体制を整え、突発的な事態に備えました。特に緊急を要する利用者の体調変化などには、迅速に対応することができました。

3 事業報告

(1) 利用者支援

ア 地域生活者としての自立支援

- (ア) 日々の生活の中で、利用者が不安や悩みを溜め込まないように、話を聞く時間を定期的に設け、話しやすい環境作りを心がけました。不満や悩みを聞くことで、課題の解決へと繋がりました。
- (イ) 新たにホームへ入居した利用者に対して、掃除・洗濯・食器洗いなど、基本的な生活スキルを身につけるよう支援しました。
- (ウ) 金銭を自己管理している利用者に対して、計画的に金銭を使えるよう、一ヶ月に使える金額を明確にしました。
- (エ) 単身生活を目指し、サテライト型住居で練習をしている利用者に対して、定期訪問を行ない、生活上の困りごと等相談する機会を設けました。目覚ましのセット・ご飯の炊き方など、失敗を繰り返しながら身につけており、次年度の単身生活を目指します。
- (オ) 自分の収入だけでは生活が難しい利用者に対して、行政と相談し法的な支援を提供しました。金銭を節約した生活の中でも、喜びや生きがいを見いだせるよう、今後について検討しました。

イ 健康管理

- (ア) 日中活動場所と連携し、健康面や情緒面の情報を共有し、日中・夜間と切れ目のない支援を行いました。
- (イ) 3月末に男性利用者1名が新型コロナウイルスに感染しました。保健所の指示に従い対応したところ、他の利用者や職員には感染せず終息しました。
- (ウ) 入居者全員に健康診断を実施し、病気の早期発見に努めました。有所見者に対しては嘱託医に相談し、必要に応じ病院へ受診しました。
- (エ) 食事に関して、必要に応じ看護師や管理栄養士からアドバイスをもらい、栄養バランスのよい食事を提供するよう心がけました。

ウ 余暇活動の充実

- (ア) コロナ禍でも有意義な生活ができるよう、個々の趣味を楽しんだり、可能な限りホーム間での交流や外出を再開し、ストレスのない環境を提供しました。
- (イ) 資格を取得したい利用者には、ボランティアの力を借りながら勉強し、資格取得の試験に備えました。自分の夢を叶えたいという気持ちが、勉学の

意欲を高めました。

エ 高齢化、重度化対策

- (ア) 65歳以上の男性1名、女性2名が高齢者施設のデイサービスを利用し、レクリエーション、機能訓練、入浴サービスなどを利用しました。
- (イ) 日中活動に参加することが難しい利用者に対して、週に2回の訪問介護サービスを利用し、健康管理に努めました。看護師からの専門的なアドバイスを参考に、健康な日々を送ることができました。
- (ウ) 成年後見制度の促進と共に、民間の身元保証のサービスの利用を開始しました。成年後見制度の申請は、時間や費用もかかるため、身元保証サービスを活用することにより、今までにない効果が生まれました。

オ 虐待防止対策

- (ア) 日々のコミュニケーションを多く持ち、利用者が話しやすい環境を作りました。また手紙なども活用し、より具体的な悩みなどを聞くことができました。
- (イ) 対応が難しい人のケース会議を行ない、障害の特性や生い立ちなどを知ることにより、ケースへの理解を深めました。
- (ウ) 職員が過度な業務により、不満や悩みを溜め込まないように、定期的に話しを聞く場を設け、ストレスの改善に努めました。

カ 関係機関との連携

- (ア) 定期的に支援センターとの会議を行い、情報の共有化を図りました。支援センターの協力により、ホームだけでは解決できない課題を多方面から支援を行うことができました。
- (イ) 就労している職場でトラブル等あったときには、支援センターの協力を得ながら、会社へ訪問し、問題解決への策を検討しました。また、会社とも情報を共有しながら、支援を行ないました。
- (ウ) 高齢者施設のケアマネージャーと密に連絡を取り合い、高齢者にとって適した支援を模索しました。

(2) 働きやすい職場づくり

ア 業務の整理

職員から業務内容を聞き取り、無駄な業務や簡素化できる業務を洗い出し、効率化を進めました。

イ ストレスの軽減

日頃から不満を溜め込まないように、職員から業務等に関する悩みを聞き取り、改善策を見つけました。また、家庭の事情による勤務・休日希望など、最大限配慮しました。

ウ 有給休暇の取得促進

コロナ禍により、日中活動場所の閉鎖や職員の突発的な欠勤、また世話人の長期病欠により代替職員を要したため、年休取得率は伸びませんでした。

(3) 人材育成

ア 職員の知識・技能向上

男性利用者1名が長期入院し、退院後の受入にて排泄の支援（おむつ交換）・ベッド上で移乗や更衣などの必要性が出てきたため、全体で更衣・移乗・排泄などの実践研修を行ないました。実践研修を行なったことで、スムーズに退院後の受入ができました。

イ 研修実績

< 法人内部研修 >

研修名	内容	日時	場所	参加者
就業規則研修	就業規則について	5/12	リモート	1名
虐待防止・権利擁護研修	虐待防止マニュアル等の確認等	11/29 、 1/31	グループホーム 事務所	8名
介護技術研修	ベッドにておむつ交換、移乗等の実演	12/27	久喜けいわ 機能訓練棟	32名

< 法人外部研修 >

研修名	内容	日時	場所	参加者
R2 年度障害者虐待防止・権利擁護研修	障害者虐待総論、障害者防止法の概要、各分野から 他	4/1～4/30	動画視聴	9名
実践交流会	日々の支援について	2/18	オンライン	3名
サービス管理責任者更新研修	サービス管理責任者の役割について 他	1/18	オンライン	1名
サビ管連絡会研修	人材育成について	3/4	オンライン	1名
R3 年度障害者虐待防止・権利擁護研修	障害の理解、障害者虐待総論 当事者の声、障害者虐待防止法 他	3/4～15	動画視聴	9名

(4) リスク管理

ア 危機管理の徹底

- (ア) 新型コロナウイルス感染防止の観点から、久喜市の防災訓練も中止になり、地域の訓練に参加することはできませんでした。
- (イ) 久喜消防署立会いの下、ホームでの総合避難訓練を行いました。通報から避難、水消火器での消火訓練を行い、利用者・職員ともに防災に対する意識を高めました。
- (ウ) 台風や地震による停電に備え、各ホームにランタンや非常用の食料を準備しました。特に夜勤者のいないホームの地震発生時には、職員の見回りや電話にて安全の確認を行ない、利用者の不安を解消しました。
- (エ) 職員が毎晩各ホームを巡回し、火の始末の確認を行い、火災の予防に努めました。
- (オ) 自転車通勤をしている利用者に対して、自転車保険の加入や安全な道を説明し、一緒にルートの確認など行ないました。

(5) 地域交流

今年度も新型コロナウイルス感染防止の観点から、地域行事は中止が目立ち、参加の自粛をせざる負えない状況でした。

(6) 感染防止策

(ア)利用者、職員及び来所者に対し、手洗い、手指消毒、マスク着用を行ない、消毒、換気を十分に行ないました。

(イ)万が一、利用者がウイルスに感染していても感染拡大しないよう、個別での食事や居室で過ごす習慣を作り、他者への感染リスクを減らす策を講じました。

(7) 事業運営

利用率の向上

(ア)新型コロナウイルス感染防止対策として、短期入所及び体験利用を制限したため、利用率は伸びませんでした。

(イ)一日通してホームから出られず、日中の支援を要する利用者に対して、行政と相談し、日中支援加算を算定しました。

IV 相談支援センター 事業報告

令和3年度事業計画に基づいて以下の事業を行いました。

1 実施事業

(1) 事業及び職員体制

令和4.3.31現在

	事業名	実施主体	職員体制
生活に関わる事業	基幹相談支援センター事業	久喜市	1名(専任)
	相談支援事業(委託、一般、特定)	久喜市	7名(兼務7名)
	障害児等療育支援事業	埼玉県	2名(兼務)
	巡回支援専門員整備事業	久喜市	3名(兼務)
	彩の国あんしんセーフティネット事業	埼玉県社協	2名(兼務)
就労に関わる事業	久喜市障害者就労支援事業	久喜市、白岡市、宮代町	3名(兼務)
	障害者就業・生活支援センター事業	国(就業)	5名(専任)
埼玉県(生活)		2名(専任,兼務各1名)	

(2) 実績件数

ア 相談支援実績

	生活支援	就労支援	総数
登録者数(人)	351	982	1,333
相談支援件数(件)	3,034	5,476	8,510
職員一人あたりの年間相談支援数(件) ※職員数14名			607

イ サービス等利用計画・モニタリング作成数 (件)

サービス等利用計画	成人	137	児童	54
モニタリング	194			

2 重点実施事項

(1) 生活支援における地域生活支援の充実

地域の自立支援協議会内の地域づくり部会において、市内の方々が親亡き後も住み慣れた地域で暮らせるための方法に関係者と一緒に検討しました。具体的な形になるのは次年度以降ですが、地域生活支援拠点等整備を担う一機関として今後も地域生活支援の充実に努めます。

(2) 就労支援における職場定着率の向上

昨年度1年間の職場定着率は78%と前年度と同じ数値でしたが、半年間の職場定着率は100%でした。退職理由は、家庭の事情、職場の人間関係、体調不良でした。今後は相談者の生活面を含めたアセスメントの強化や、本人や企業との密な連絡を行い職場定着支援の強化に努めていきます。

(3) 虐待防止・権利擁護

法人内の虐待防止委員会の動きに準じ、事業所内研修や日常的な権利擁護に関する声掛けを行いました。自立支援協議会においては、来年度から権利擁護部会立上げ検討会議に参加し、地域内における虐待防止・権利擁護の方法に関係者とと

もに検討しました。

3 事業報告

(1) 利用者支援

ア 基幹相談支援センター事業（久喜市基幹相談支援センター）

(ア)久喜市内の相談支援事業所を訪問する中で専門的な助言・指導、地域課題の整理を行いました。

(イ)自立支援協議会の事務局を行政と共に行い、定例の会議や専門部会を実施する中で地域課題に対するアプローチを行いました。特に大きな動きとして、地域生活支援拠点等整備を行いました。

(ウ)来年度も感染防止対策を講じつつ自立支援協議会の取り組みを継続することで、地域の相談支援体制の維持・向上に努めていくことが必要です。

<支援種別> (件)

電話相談	外来	関係機関訪問	個別会議参加	指定特定巡回
90	35	9	11	25

イ 相談支援事業（久喜市障がい者生活支援センターきらら）

(ア)久喜市の委託を受けて相談支援事業を行いました。

(イ)相談の傾向として、退院後の生活環境調整やグループホーム利用に関する相談が増加しています。

(ウ)課題として、コロナ禍の影響で受入れを中断しているサービス事業所が多いことや、グループホームの数が増えた分、支援の質にばらつきが有るといった状況があります。

<支援種別> (件)

訪問	外来	同行	個別会議	関係者会議
650	328	330	44	325

ウ 障害児等療育支援事業、巡回支援専門員整備事業（久喜市障がい者生活支援センターきらら）

(ア)保育園、幼稚園、小・中学校を巡回し、保育士・教員に対して、発達の遅れのある児童への指導方法や環境調整について助言を行いました。

(イ)相談の傾向として、発達障害及び愛着障害のある児童への接し方に関する相談が多くありました。放課後等デイサービス事業所の増加により、関係機関での連携がより一層、必要となっています。

<支援種別> (件)

訪問療育	外来療育	施設への指導
1421	216	156

エ 市町村障害者就労支援事業（久喜市障がい者就労支援センター）

障害者就業・生活支援センター事業（埼玉北障害者就業・生活支援センター）

(ア)主に利根保健福祉圏域（7市2町）に住んでいる障害のある方の就労相談及び就労支援を行いました。コロナ禍の影響で、新規就職者数及び実習者数は例年に比べると少なめですが、前年度と比較すると増加しています。

(イ)相談者を障害種別にみると、精神障害・発達障害の方が多く見られました。

また、相談者は体調面や生活面、家族環境等において不安定なケースが多く、仕事に向けた訓練と共に、行政や相談支援事業所、医療機関と連携しての生活面のフォローが必要になっています。

(ウ) 毎月 2 回の定期ミーティングにて各職員の利用者支援の状況を共有し、必要な支援を多角的に検討することで、職場定着率の向上に努めました。

<支援種別> (件)

来所相談	電話相談	職場訪問	他機関訪問	新規就職者	実習者
548	2908	1166	250	22	33

<登録者内訳> (人)

	令和 3 年度	令和 2 年度
身体障害	78	76
知的障害	546	537
精神障害	358	327
合計	982	940

<新規就職者内訳> (人)

	令和 3 年度	令和 2 年度
身体障害	0	3
知的障害	9	7
精神障害	14	8
合計	23	18

オ 虐待防止対策

(ア) 相談支援において生じるリスクのある虐待・権利侵害について事業所内研修を行い、意識向上を図りました。併せて、相談支援の立場は虐待を発見しやすい事を再確認し、虐待対応の流れについても改めて周知・共有しました。

(イ) 自立支援協議会内の権利擁護プロジェクトに主体的に参加し、地域の障害児者の虐待防止について行政・関係機関と連携し、問題解決に努めました。来年度からはより充実した取り組みとなるよう、部会化に向けた協議に主体的に参加しました。

(2) 働きやすい職場づくり

ア 毎月の主査主任打合せにおいて生活・就労各事業の業務進捗状況や職場内における課題点を確認し、具体的な解決方法を協議し、期限を設けて取り組みました。

イ 職員個々が悩み・心配事を一人で抱え込むことが無いよう、各主任からの日常的な声掛けや定期的なミーティング、適時の個別面談を行いました。

ウ ゴールデンウィークやお盆等には早期の段階で出勤当番を決める事で各職員が休みを取りやすい体制を組みました。それにより、全職員が年間 6 日以上の年次有給休暇を取得しています。

(3) 人材育成

ア 毎月の主任主査打合せにてミニ研修を行うことでリーダー職のスキルアップを図り、生活・就労各スタッフへの育成スキル向上に努めました。

イ 各種外部研修については、コロナ禍の影響から対面での実施は減っているものの、対面の際にはフェイスシールド等を使用し感染防止策を講じた上で参加しています。オンライン実施の研修も増えているため、適時参加しています。

ウ センター内にて新人職員の育成体制を強化するため、個別育成計画のフォーマットを作成し、活用しました。

<参加研修（一部）>

研修名	主催	日時	場所	参加者
相談支援従事者初任者研修	埼玉県	11/1他	春日部市民文化会館	袴田、近藤
相談支援従事者現任研修	埼玉県	1/6他	ウェスタ川越他	袴田、近藤
構築推進研修	埼玉県	1/7	ZOOM	筒井、近藤
専門コース別研修（障害児）	埼玉県	1/28他	彩の国すこやかプラザ他	筒井
専門コース別研修（地域移行）	埼玉県	3/10	ZOOM	袴田

（４）リスク管理

- ア 利用者記録等はすべて鍵付きのロッカーで保管し、パソコン・携帯電話にもすべてパスワード設定をする等、個人情報への漏洩防止に努めました。
- イ 利用者や関係機関から苦情等があがった際には真摯に対応するとともにその原因を検証し、同様の事が生じないように全体でも共有しました。
- ウ 公用車の管理担当者を２名配置して安全点検に努めるとともに、事業所内にて安全運転講習を実施することで、安全運転の意識向上を図りました。

（５）地域との連携

- ア 利用者が地域の中で幅広いサービスを選択できるよう、圏域内の関係者・相談員と日常的に連携をとりました。
- イ 緊急・困難なニーズに対しても対応出来るよう、日頃から地域の各事業（地域自立支援協議会等）に参加し、ネットワークを広げました。

（６）事業運営

- ア 事業計画について年度当初に全職員に周知し、実績向上への意識を共有したうえで事業を運営しました。
- イ 印刷コストについて全職員で共有し、大幅な増額があった際には原因を検証し、対応策を検討することで経費削減に努めました。
- ウ 計画相談のモニタリングについて、出来る限りサービス事業所へも巡回する事で加算を取得し、収入の向上に努めました。

（７）その他

あんしんセーフティネット事業については、他制度の充実により年々件数が減少傾向にあり今回も支援依頼0件でした。地域の各関係者と状況を共有し、今後もいざという時に支援に入れる体制を維持する方向性を決めました。

V 障害者生活支援センターきよく 事業報告

令和3年度の事業計画に基づいて以下の事業を行いました。

1 実施事業

(1) 利用者状況

令和4.3.31現在

事業名	対象利用者
特定相談支援・障害児相談支援	239名

(2) 実績件数

ア 指定特定相談支援（成人）

サービス等利用計画	171件
モニタリング	380件

イ 指定障害児相談支援（児童）

サービス等利用計画	0件
モニタリング	0件

(3) 職員体制

職種	人数	備考
所長	1	正規職員（法人内他事業所兼務）
相談支援専門員	7	正規職員（専任）1名 正規職員（法人内他事業所兼務）6名
合計	8	

2 重点実施事項

(1) サービス等利用計画とモニタリング報告書の質の向上

利用者や家族、関連する事業所から聞き取る際に、その背景にある課題等に目を向け、細かいところにまで支援が行き届くようにしました。また、2ヶ月ごとに開催された久喜市計画相談支援連絡会でのケース検討会に出席し、様々な事例について意見交換をし、サービス等利用計画やモニタリング報告書の質の向上に繋がりました。

サービス等利用計画書及びモニタリングの作成件数は併せて551件と非常に多い件数でしたが、期日内に作成し市に提出することができました。

(2) 他関係機関との連携強化

サービスを利用されている各事業所にこまめに連絡を取り、情報を統一して共通認識のもと支援を行えるようにしました。また、利用者のニーズに合わせて各関係機関に連絡を取り、サービスの調整や相談等をしてスムーズな支援に繋がりました。

3 事業報告

(1) 利用者支援

ア 新規の計画作成が6件ありました。利用者や家族の意向を聞き取り、利用者の

身体状況や取り巻く環境、生活歴など客観的な情報を整理して、適切な障害福祉サービスの組み合わせについて検討し、サービス等利用計画書を作成しました。

- イ 再計画については、利用者の心身の状況や選択に基づいているか見直し、総合的かつ効率的に提供されるサービス等利用計画書を作成しました。
- ウ 一定期間ごとに利用者、家族、関連する事業所から聞き取りをし、モニタリング報告書を作成しました。
- エ 障害者虐待防止・権利擁護研修（オンライン）の受講や法人内他事業所の内部研修に参加し、相談支援における障害者虐待防止への意識を高めました。

（２）働きやすい職場づくり

- ア 計画作成が円滑に進められるように、各事業所長やサービス管理責任者、各担当と事前に連絡を取り、スムーズに業務が取り組めるようにしました。
- イ 専任職員を1名配置したため、兼務職員の担当者数を減らして対応することができました。
- ウ 相談支援専門員の現任研修に2名が受講し、計画作成に携わる人員を維持しました。

（３）人材育成

- ア 法人内の相談支援センターとの内部研修や久喜市相談支援連絡会に出席し、様々な情報を共有したり、ケース検討などを通して、知識と技術の向上に努めました。
- イ お互いが抱えている事案について情報を共有し、サービスの提供について意見交換を通じて、専門性が高まるようにしました。
- ウ 研修参加状況

<外部研修>

日付	研修名	主催者名	参加者名
12/10	ケアラー支援関係機関向け研修	埼玉県	山崎
1/20	精障害者支援の障害特性と支援技法を学ぶ研修	県立精神保健福祉センター	山崎
3/18	障害者虐待防止・権利擁護研修 (オンライン)	(有) プログレ総合研究所 (埼玉県)	山崎

<内部研修>

日付	研修名	主催者	参加者名
1/5	虐待防止研修 ～相談支援における虐待防止～	相談支援センター	山崎

（４）リスク管理

- ア 相談者から受けた相談や個人情報には取り扱いに充分注意をし、記録等は鍵の

かかるロッカーに保管し、漏洩しないようにしました。

イ 相談者からの要望や関係機関から得た情報は全体で共有し、同じような事案の時に対応できるようにしました。

(5) 感染症防止対策

ア 新型コロナウイルスの感染防止を考慮し、対面で聞き取る時は、マスクの着用や距離を取るなど、十分配慮して行いました。

イ 電話での説明や聞き取りの他、設備が整っている事業所では、オンラインを使用して双方の顔が見える形で行いました。

(6) 事業運営

新型コロナウイルス感染症に十分配慮した上で、可能な範囲で事業所に訪問しました。事業所での様子や取り組みをモニタリング報告書に反映し、加算の取得に結びました。

VI ワークハウス コムロード 事業報告

令和3年度の事業計画に基づき、以下の障害福祉サービス事業（就労継続支援B型）を行いました。

1 実施事業

(1) 利用定員と利用率

定員 20名 現員 27名（男性 18名、女性 9名）

月別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
開所日数	21	19	22	20	19	20	22	20	20	19	18	22	242日
延利用人数	348	312	359	307	291	348	355	321	330	307	281	312	3871人
利用率%	82.9	82.1	81.6	76.8	76.6	87.0	80.7	80.3	82.5	80.8	78.1	70.9	80.0%

(2) 利用者の状況

ア 年齢構成

年齢	20～24	25～29	30～39	40～49	50～59	60～	計	平均
男性	1		5	9	2	1	18	42.4
女性		1	4	2	2	0	9	37.6
計	1	1	9	11	4	1	27	40.8
%	3.7	3.7	33.3	40.7	14.9	3.7		

イ 障害支援区分

	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	未判定	計
男性	0	2	3	3	0	0	10	18
女性	0	0	4	0	0	0	5	9
計	0	2	7	3	0	0	15	27
%	0.0	7.3	26.0	11.1	0.0	0.0	55.6	100.0

ウ 精神障害者保健福祉手帳および療育手帳および身体障害者手帳の所持状況

	精神障害者保健福祉手帳					療育手帳				身障手帳	
	1級	2級	3級	なし	計	B	C	なし	計	3、4級	計
男性	0	8	1	9	18	9	3	6	18	1	1
女性	0	4	1	4	9	0	2	7	9	1	1
計		12	2	13	27	9	5	13	27	2	2
%		44.5	7.3	48.2	100	33.3	18.5	48.2	100		

(3) 職員体制

職種	配置人数	備考
管理者	1	サービス管理責任者兼務
生活支援員	1	

職業指導員	1	
運転員	1	法人内他事業所兼務
計	4	

2 令和3年度の重点事項

(1) 経営基盤の確立

利用率が前年度 68.2%から 80.0%に伸びたため、当初予算を上回る収入を得ることができました。

(2) 1人ひとりの能力や適性に応じた活動支援の充実

利用者の希望や適性を考慮した個別支援計画を作成し、支援しました。

(3) 工賃の向上

新たな受注先の開拓はしましたが、コロナ禍で前年度より受注量が減少し平均工賃が減りました。

3 事業報告

(1) 利用者支援

ア 利用者の尊重

利用者の人権を尊重し、意思決定を引き出す支援を心掛けました。

イ 就労支援

(ア)施設外での取り組みは社会情勢を考慮して中止しました。

(イ)就労準備性強化のために個々に目標に沿った作業内容や休憩時間のとり方に工夫をしました。

(ウ)就労支援センターの協力により、1名が一般企業の体験実習に挑戦できました。

ウ 日中活動支援

(ア)新たな受注先を確保したものの、前年度より受注量が減ってしまったので平均が 3,000 円近く下がりました。

月 別	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
支給額	119,100 円	108,704 円	127,969 円	114,550 円	209,824 円	146,626 円
10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
284,413 円	313,972 円	69,438 円	178,084 円	216,066 円	304,718 円	2,193,191 円

(イ)自らの意見を述べる場として毎月作業工賃支給日にアンケートを実施し、当月の反省や翌月の目標を記入してもらい支援に反映させました。

(ウ)電話やメール等を通じて利用者本人と接触を図りましたが、通所には至りませんでした。

エ 在宅支援の実施

在宅支援については要件である自宅での課題の提供が難しく希望者 1 名のみで実施しました。

オ 虐待防止対策

(ア)職員はチェックリストの結果を元にディスカッションしたり、オンライン研修に参加することで自覚を促しました。

(イ)虐待防止について、事業所内にチラシを掲示したり、リーフレットを配布する等で利用者に周知しました。

(2) 働きやすい職場づくり

ア 業務内容の整理

新しい活動を立ち上げるにあたって、主担当を決めて他の職員はサポートに回りました。

イ 心身の健康への配慮

健康診断、ストレスチェックを実施しました。職員の少ない小さな職場であることを活かして、コミュニケーションを密にして各職員の心身の状況を把握することに努めました。

ウ 年次有給休暇の取得促進

年次有給休暇の取得率は60%です。

(3) 人材育成

職員1人ひとりの個人としての資質向上

(ア)リモートではありますが、担当ケースの抱える課題や、職員の興味のある分野についての研修に参加しました。また、研修で知り合った他事業所の職員と連絡を取り合い、人脈を広げて仕事の参考になる情報を交換することができました。

研修名	主催	期日	場所	参加者
障害者虐待防止・権利擁護研修	埼玉県 (有限会社プログレ総合研究所)	4/20～ 6回に分けて	オンライン	岡本、大出、小田部
就業規則オンライン研修	啓和会	5/12	オンライン	岡本、大出、小田部
社会福祉施設災害研修 平時の備えから有事の対応力強化を目指して	埼玉県社会福祉協議会 施設業務課	7/28	オンライン	小田部
障害の理解とリハビリテーション 総論編	埼玉県総合リハビリテーションセンター	8/12、20	オンライン	岡本、大出、小田部
福祉施設における新型コロナウイルス感染症対策を学習するための動画視聴	埼玉県	9/17	オンライン	岡本、大出、小田部
リスクマネジメント研修	埼玉県社会福祉協議会	11/19、24	オンライン	岡本、大出、小田部
生活保護制度入門研修	埼玉県社会福祉協議会	12/1	オンライン	岡本、大出、小田部
オンライン施設見学会	埼玉県発達障害福祉協会	12/2	オンライン	大出
障がいのある人の権利擁護について	スーパー又村塾オンライン	12/18	オンライン	岡本、大出、小田部

「人材育成に必要な本当のことは、 ～人育ては自分育て・人の成長は自 分の成長～」	埼玉葛北地区自立支援協議会、 久喜地区自立支援協議会	3/4	オンライン	岡本
障害者虐待防止・権利擁護研修	埼玉県	3/30	オンライン	岡本、大出、小田 部

(イ)職務点検シートを活用して、各職員の年度目標の設定や中間の振り返りを行い、業務の進捗確認を行いました。

(4) リスク管理

ア 災害対策

(ア)防災計画に基づき、年2回の避難訓練を実施しました。

(イ)避難訓練は、パワーポイントの資料映像を見ながらわかりやすく要点を伝えました。また、災害伝言板を使う練習を利用者本人や保護者にもしてもらい、実践的な体験ができました。

(ウ)被災時に備えて保護者と連絡をとり、万一の際の帰宅方法、迎えの方法、連絡方法を取り決めました。また、定時薬を2日分預かりました。

イ 安全の確保

(ア)建物や設備の安全点検を実施、特に修繕の必要な箇所はありませんでした。

(イ)公用車の定期点検を実施しました。送迎中の交通事故はありませんでした。

ウ 個人情報の保護

(ア)利用契約時に「個人情報使用同意書」説明を行い、ご本人の署名捺印をいただきました。

(イ)メール、FAXを利用して個人情報を送受する際には個人が特定されないように、PWやイニシャルを使用しました。

(ウ)SNS等を利用して利用者の情報を発信する際は「画像使用承諾書」に署名捺印いただきました。また、承諾した方であっても画像をアップする前には本人の確認と承諾をいただきました。

(エ)職員の私物のスマートフォン等に利用者の画像や情報を残さないよう注意喚起しました。

(5) 感染症対策

ア 衛生管理

(ア)マスクのできない利用者はいませんが、鼻マスクになる方が数名いたの
で、見かけた時には声をかけました。

(イ)定時の換気、家具・備品・什器・公用車の消毒、パーテーションの設置を
しました。

イ 感染拡大の防止

(ア)利用者自身の体調の変化を自覚して出欠を決めることはできましたが、家
族に体調不良者が出て出勤してきた事例が2件ありました。そのような
ことがないようにプリント等を配布し周知しました。

(イ)日中活動中の密を避けるため、活動場所・休憩場所・休憩時間をずらしてもらいました。

(ウ)会議、研修、打合せ等は、ほとんどリモートで行いました。

(エ)埼玉県、法人本部、感染症対策委員会の最新の対応方針を守り、実行しました。

(6) 地域交流

地元催事への参加

地域のイベントはあまりせんでしたが、自治会の活動や近隣施設の避難訓練に参加しました。

(7) 事業運営（収益の向上）

ア 経営の安定化

利用率が前年度 80%に伸びたため、当初予算を上回る収入を得ることができました。

イ 利用率の向上

(ア)計画に掲げた利用率 95%には至りませんでした。密を避けることを考慮すると現状が適正ではないかと考えます。

(イ)関係機関を定期的に訪問することはできませんでした。

Ⅶ 久喜市いちょうの木 事業報告

令和3年度事業計画に基づいて以下の事業を行いました。

(1) 実施事業

定員と現員

令和4.3.31現在

事業名	定員	現員
生活介護	40名	39名（男性26名、女性13名）

(2) 利用者の状況

ア 年齢構成

年齢	～19	20～24	25～29	30～39	40～49	50～59	60～	平均
男性	0	0	1	12	7	4	2	43.5歳
女性	0	0	0	5	5	3	0	43.6歳
計	0	0	1	17	12	7	2	43.5歳
%	0	0	2.6	43.6	30.8	17.9	5.1	

イ 障害支援区分

区分	区分3	区分4	区分5	区分6	計	平均区分
男性	0	7	7	12	26	5.2
女性	0	3	4	6	13	5.2
計	0	10	11	18	39	5.2
%	0	25.6	28.2	46.2	100	

ウ 療育手帳及び身体障害者手帳の所持状況

	療育手帳				計	身体障害者手帳					計
	㊤	A	B	C		1級	2級	3級	4級	5級	
男性	19	7	0	0	26	2	3	0	0	0	5
女性	10	2	1	0	13	3	1	0	1	0	5
計	29	9	1	0	39	5	4	0	1	0	10
%	74.4	23.0	2.6	0	100	50	40	0	10.0	0	100

(3) 職員体制

職 種	配置人数	備 考
施設長	1	サービス管理責任者兼務
主査支援員	1	相談支援専門員兼任
主任支援員	1	
生活支援員	16	常勤13名 非常勤3名
看護師	1	法人内他事業所兼務
栄養士	1	法人内他事業所兼務
事務員	1	

運転員	2	
計	26	

2 重点実施事項

(1) 新型コロナウイルス感染予防対策の徹底とそれを踏まえた上での社会参加の促進

感染症対策マニュアルの見直しを行い、感染対策の強化を図りました。その上で新型コロナウイルス感染拡大の状況を注視しながら活動に取り組みました。とりわけ、オンラインを活用した他事業所やご家族との交流、作品販売等の情報発信は好評で新たな試みとして成果のあるものでした。

(2) 利用率の向上

新型コロナウイルス感染症の影響で利用を自粛される人も多くいましたが在宅支援を行うことで対応しました。しかし、定員の充足が図れなかったことや長期間の入院を要した人もいたため、昨年度よりも利用率は低下しました。

(3) 作業工賃収入の向上

作業収入額については昨年度よりも下回りましたが、相当の収入が確保できたため、年3回だった工賃支給を4回に増やすことができました。イベント等による販売の機会はほとんどありませんでしたが市内店舗での陳列やインターネット販売などで収益を得ることができました。

3 事業報告

(1) 利用者支援

ア 支援方針

本人の意思を尊重する関わりや強みを生かした取り組みを実践し、状態像や環境の変化に配慮した支援を行いました。

イ サービスの提供

(ア)今年度においても新型コロナウイルス感染症の影響により様々な活動場面で制限せざるを得ない状況が続きました。外出を伴う行事や人が密集しやすくなる交流行事等は中止または感染対策を十分に行った上で縮小、代替して実施しました。とりわけ、オンラインを活用した他事業所との交流や行事の様子を家族に配信する等の試みは一定の成果を得られました。

(イ)食事や排せつ等の日常生活支援は感染対策としてマスク、フェイスシールド、手袋等を着用して支援を行いました。作業活動では人数の分散やアクリル板の設置、ソーシャルディスタンスの確保を行って活動に取り組みました。今年度の作業活動による収入は以下の通りです。

<作業活動収入>

支給日	4月8日	7月9日	10月8日	1月7日	年間合計
支給額	149,382円	205,104円	219,300円	200,882円	774,668円
平均支給額	3,830円	5,259円	5,623円	5,151円	4,966円
最高支給額	4,644円	5,712円	6,200円	5,612円	5,542円

最低支給額	0円	3,072円	0円	0円	768円
-------	----	--------	----	----	------

※昨年度年間支給額 887,545円 昨年度比 -112,877円

ウ 虐待防止対策

「障害者虐待防止に関する諸制度」「強度行動障害の理解」「権利擁護」について内部研修を行いました。また、虐待防止チェックリストを活用し、個人の課題や事業所としての課題について職員間で共有し、課題解決のための意見交換を行いました。昨年度実施したチェックリストの点検結果と比べると自己点検による評価は高い傾向にありましたので意識の向上は図られてきていると思われま

す。新型コロナウイルス感染症の感染予防の観点から外部研修への参加は行いませんでした。

(2) 働きやすい職場づくり

ア 効果的な業務の改善

グループ会議・リーダー会議を定期開催したことで議論が活発化され、横断的な取り組みが出来るようになりました。これまでは介護度の高い人やコミュニケーションに課題のある人への対応が出来る職員は限られていましたが、グループ間での議論が増えたことで情報の共有が図れ、実践につながるようになりました。

イ コミュニケーションの円滑化

主任と主査による中間面接と最終面接を実施しました。面談においては業務に関すること以外のことも相談できる機会となり、その後の関係性も深まり、相談しやすい環境が構築できつつあります。

外部講師によるコミュニケーション研修は実施できませんでした。

ウ 労働災害の防止

年3回、リスクアセスメントチェック表を活用して危険個所の点検を行いました。普段見落とししやすい箇所の点検が出来たため、事故防止に大いに役立ちました。また、労働災害に該当するような事故はありませんでした。

エ 年次有給休暇の取得促進

1人年平均13日の取得ができました。昨年度よりも1人平均1日の減少でしたが、比較的良好な年次有給休暇を維持できました。

(3) 人材育成

ア OJTの強化

研修名	期日	参加職員
事業所内部研修 「制度から見た、社会的役割」	令和3年4月28日	常勤職員17名
事業所内部研修 「障害者虐待の歴史から背景を知る」	令和3年5月26日	常勤職員18名
事業所内部研修	令和3年8月26日	常勤職員18名

「虐待事例から考える」		
事業所内部研修 「障害福祉制度の動向について」	令和3年9月22日	常勤職員 17名
事業所内部研修 「強度行動障害の背景」	令和3年11月24日	常勤職員 17名
事業所内部研修 「権利擁護ってなんだろう？」	令和3年12月22日	常勤職員 18名
事業所内部研修 「感染症についての知識と理解」	令和4年1月20日	常勤職員 18名

イ OFF-JTの積極的な参加 ※オンラインによる参加

研修名	期 日	参加職員
株式会社エイドケアガレッジ 「強度行動障害者支援者研修」	令和3年4月12日	菅原 由華
株式会社ジェイアイシー 「事故防止・危険予知トレーニング」	令和3年4月16日	大津 政裕
埼玉県アートネットワーク 「グッズ販売研修」	令和3年6月17日	菅原 由華 西村 春美
埼玉県発達障害福祉協会 「虐待防止研修・権利擁護研修」	令和3年6月23日	常勤職員 17名
埼玉県 「サービス管理責任者等更新研修」	令和3年6月25日	中村 秀樹
埼玉県アートネットワーク 「アートレクチャー研修」	令和3年7月15日	菅原 由華
埼玉県発達障害福祉協会 「感染症対策研修」	令和3年10月12日	古見 梨絵
日本知的障害者福祉協会 「日中活動支援部会全国大会」	令和3年10月15日	中村 秀樹
日本知的障害者福祉協会 「全国施設長等研修」	令和3年11月2日	中村 秀樹
埼玉県セルフセンター協議会 「製品作成（販売）研修」	令和3年11月11日	川崎 由衣
埼玉県総合リハビリセンター 「口腔ケア研修」	令和3年11月15日	西村 春美
埼玉県発達障害者支援センター 「自閉症（ASD）講習」	令和3年12月15日	野中 正臣
リーオン三ー 「虐待防止・防災・接遇研修」	令和3年12月1日～ 令和3年12月28日	常勤職員 7名
埼玉葛北・久喜地区自立支援協議会 「人材育成研修」	令和3年3月4日	川崎 由衣

(4) リスク管理

ア 避難訓練の実施

震災を想定した訓練と火災を想定した訓練を消防署立ち合いのもとで年2回実施しました。密にならないように数カ所の避難経路を想定したり、避難場所も人数と場所を分散して行いました。消火訓練には利用者にも参加してもらい、防災意識の向上につながりました。また、毎年実施している地元73区の自主防災組織による合同防災訓練は感染予防対策の観点から今年度も中止とりました。

イ 守秘義務の徹底

法人の規定する「個人情報に対する基本方針」及び「個人情報の利用目的とその取扱い」を掲示し常に確認できるようにしました。また、広報関係や関係機関における会議等で情報を必要とする場合には本人、家族に説明し同意を得て行いました。支援中においても同様で、利用者とその家族のプライバシーに関することは他者の前で話題としないことを徹底しました。

ウ 建物、設備等の老朽化への対応

- (ア)すべての水道を自動水洗に交換しました。
- (イ)床の歪みが大きい箇所を修繕しました。
- (ウ)壁紙のはがれや痛みの激しい箇所を交換しました。

エ 機能低下が見られる人の支援中の事故防止への対応

年2回、市内の鍼灸マッサージ師に来所してもらい身体機能維持のために必要なスキルを学び、安全で効果のある適切な取り組みが出来るようにしました。また、摂食に課題のある人が増えてきているため、月1回の給食会議で摂食状態のアセスメントを行い、安全な食事提供を行いました。障害のある人の接触に関する研修にも参加し職員全員で共有を図りました。

(5) 感染症防止対策

ア 3密を避けた活動の工夫

人数と場所を分散して活動を行いました。少人数化や場所が分散されたことによってひとり一人の集中力が高まったり、より個人の特徴に合った作業種を提供することができました。

イ 飛沫防止の対応

以下の対策を講じて実施しました。

- (ア)マスクの着用と手指の消毒の徹底
- (イ)身体接触を伴う介助（食事、移乗、洗面、身体訓練）の際の手袋とフェイスシールドの着用
- (ウ)定期的な施設内の消毒
- (エ)対面を避けた食席やアクリル板の設置

ウ 体調管理

1日3回（出勤時（登所時）、14:30、退勤時（降所時））の体温測定を行い、症状の早期発見に努めました。

(6) 地域交流

ア 毎年恒例となっている地域との交流行事は新型コロナウイルス感染症の拡大により今年度も実施できませんでした。

イ 広報誌の年3回の発行

年4回発行しました。関係各所に配布し、活動の様子等について広く周知してもらおうようにしました。

ウ 見学者、実習生、ボランティアの受入れ

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により感染予防対策の観点から、見学者及びボランティアの受入れは行いませんでした。実習生の受入にあたっては学校側と協議し実習時間の短縮等の対策を図った上で以下の受入を行いました。

〈実習生の受入れ〉

学校等所属	内容	期間	人数
久喜看護専門学校	看護実習	令和3年6月7日～令和3年6月11日	1名
久喜看護専門学校	看護実習	令和3年6月28日～令和3年7月2日	1名
久喜看護専門学校	看護実習	令和3年7月5日～令和3年7月9日	1名
久喜看護専門学校	看護実習	令和3年7月12日～令和3年7月16日	1名
埼玉福祉専門学校	保育実習	令和3年7月19日～令和3年7月30日	1名
城西大学	介護等体験実習	令和3年8月2日～令和3年8月6日	1名
久喜看護専門学校	看護実習	令和3年10月4日～令和3年10月7日	1名
久喜看護専門学校	看護実習	令和3年10月11日～令和3年10月15日	1名
平成国際大学	介護等体験実習	令和3年10月18日～令和3年10月22日	1名
平成国際大学	介護等体験実習	令和3年10月25日～令和3年10月29日	1名
上武大学	介護等体験実習	令和3年11月8日～令和3年11月12日	1名
久喜看護専門学校	看護実習	令和3年12月14日～令和3年12月17日	1名
延べ 12校		延べ日数 74日	12名

エ 自主製品の販売

広報誌や法人のホームページを活用して製造販売を行いました。また、市内の店舗に陳列させてもらったり、インターネットのサイトに製品を登録して販売しました。市内の店舗の製品は好評で住民の方の注文をいただくことが多く、作業工賃収入の向上になっています。

オ いちょうの木まつりの開催

新型コロナウイルス感染症の影響で地域の方や外部の方を招いての開催はできませんでしたが、利用者・職員のみで開催しました。出来る範囲で例年の様子に近い環境になるよう工夫し、まつりの雰囲気を楽しむことができました。

カ 清久コミュニティ協議会への参加

今年度も新型コロナウイルス感染症の影響で協議会の活動が控えられたので参加はできませんでした。

(7) 事業運営

ア 利用率の向上

※昨年度比：-3.9%

月別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
開所日数	22	19	22	23	22	21	22	21	21	20	13	22	248
延利用数	788	698	811	822	783	739	792	743	740	724	491	820	8,951
利用率 %	89.5	91.8	92.2	89.3	89.0	88.0	90.0	88.5	88.1	90.5	94.4	93.2	90.2

イ 土曜開所の実施

※昨年度比：-2人

月別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
延べ人数	26	27	0	24	30	25	35	26	25	26	0	0	244名

ウ 夏季期間中の開所

今年度は夏季開所日は8月13日のみで利用された人は30名でした。

エ 久喜市日中一時支援事業

※昨年度比：+13人

月別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
延べ人数	3	3	5	4	2	4	3	2	5	2	1	4	38名

オ 送迎サービスの実施

公用車3台、5ルートで対応しました。利用された人は30名です。感染予防対策として走行中の換気や乗降時の手指の消毒、添乗職員のマスクとフェイスシールドの着用、降車後の消毒の徹底を行いました。

カ 経費の削減

支出予算額に対して98.3%の執行率でした。また、昨年度とほぼ同額の支出額だったので大きな削減とはなりませんでした。消耗品類は削減できましたが感染予防対策に関する備品の整備で日用品による出費が目立ちました。

Ⅷ 久喜市立のぞみ園 事業報告

令和3年度事業計画に基づいて以下の事業を行いました。

1 実施事業

(1) 定員と現員

令和4.3.31現在

事業名	定員	現員
児童発達支援	定員10名	11名(男児6名、女児5名)

<入退園等>

入園4名(4月1日 男児2名 女児2名)

卒園2名(男児1名:就学先 久喜市立菖蒲東小学校 特別支援学級

女児1名:就学先 埼玉県立宮代特別支援学校)

退園2名(2月28日付 女児1名 引っ越しのため

3月31日付 男児1名 保育園への移行のため)

<併用の状況>

8名 幼稚園・保育園との併用

(久喜市立中央幼稚園、久喜市立すみれ保育園、おひさま保育園、長龍寺幼稚園)

(2) 利用者の状況

ア 年齢構成

令和4.3.31現在

区分	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	平均
男	0	0	0	2	3	1	4.8歳
女	0	0	1	0	3	1	4.8歳
計	0	0	1	2	6	2	4.8歳

イ 障害者手帳の所持状況

令和4.3.31現在

区分	療育				身体	なし	計
	㊤	A	B	C	1級		
男	0	1	0	0	1	4	6
女	0	0	1	2	1	1	5
計	0	1	1	2	2	5	11

ウ 利用率の状況

月別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
開園日数	21	18	22	20	19	20	21	20	20	19	18	22	240日
延利用者数	174	150	187	162	140	150	138	137	137	97	105	106	1,683
利用率	82.9	83.3	85.0	81.0	73.7	75.0	65.7	68.5	68.5	51.1	58.3	48.2	70.1%

(3) 職員体制

職 種	配置人数	備 考
園長	1	児童発達支援管理責任者兼務
保育士	4	
支援員	1	
計	6	

2 重点実施事項

(1) 利用率の向上

80%を目標としていましたが、年間70%と目標に到達しませんでした。年度当初は好調でしたが、新型コロナウイルス陽性者が併用先で発出したことによる欠席や、3月に当園で陽性者が出たことでの休園、退園した空きを埋められなかったことなどの理由で利用率は上がりませんでした。今後も利用率を上げることを必須の課題として努力していきます。

(2) 業務の整理

雇用形態ごとに業務の分担を行いました。特に短時間職員の仕事について割り振り、自分の仕事を把握してもらうように努めました。現場での動きやすさや負担の軽減に繋がりました。

(3) 専門的な知識や技術の習得

内部研修でペアレントトレーニングについて学んだり、発達支援の専門誌を購読し、「気持ちの切り替え」など障害についての知識・支援の方法などについて学びました。学んだことは職員へ周知し、支援に活かすことができました。

3 事業報告

(1) 利用者支援

ア 集団生活に適応する力を育てる

(ア)食事、排泄、着替えなどの生活習慣や動作をできるだけ自分で行き、自信がつくよう支援をしました。苦手なところは分かりやすく伝えたり、「自分でやってみよう」という意欲を持ってもらうようにスモールステップで支援を行いました。

(イ)遠城寺式乳幼児分析的発達検査法や乳幼児精神発達診断法などの発達検査を定期的実施して発達を確認し、職員間で情報を共有しながら個々に合った支援を行いました。

イ 療育専門指導

定期的な療育の訪問指導を行いました。指導者と情報交換を行い、子どもの発達についての情報を共有しました。また、指導者からのアドバイスを参考に日々の支援を行いました。

ウ 家族支援

(ア)先輩保護者との情報交換の場は、新型コロナウイルス感染予防のため実施できませんでしたが、就学に関する情報は積極的に発信してその都度相談を行

いました。放課後等デイサービスが近隣に増えてきているため支援センターと連携しながら情報を提供できるように努めていきます。

(イ) 兄弟姉妹への関わり方について、グループ親子登園日の時に意見交換をしました。兄弟もまだ小さいこともあり、障害についてどのように伝えるか悩む姿も見られました。今後もこのような機会を提供していきたいと思います。

エ 虐待防止対策

(ア) チェックシートを利用して、支援が適正か確認を行いました。虐待に繋がりそうな状況（活動の切れ間に子どもを待たせてしまう等）を確認し、改善することができました。

(イ) 内部研修として、虐待防止マニュアルの読み合わせや支援の振り返りを行いました。どのように支援したら良いか迷うケースについては、職員間で話し合い、支援の方向性を共有しました。

(ウ) 新型コロナウイルス感染予防のためボランティアや実習生の来園がなく、支援についてのアンケートの実施はできませんでした。

(2) 働きやすい職場づくり

ア 業務の見直し

雇用形態ごとに業務を明確にして割り振りを行いました。また、残業の軽減のために日中の時間帯に順番で事務仕事や活動準備ができるように調整しましたが残業の軽減にはなかなか繋がりませんでした。

イ 年次有給休暇の取得促進

お盆や連休時など、園児の利用が少ない時に休みが取れるように調整し、全職員が年次有給休暇を5日以上取得することができました。

(3) 人材育成

ア 発達支援の専門的な知識の習得

外部研修には参加できませんでしたが、発達支援の専門誌や Web 配信による情報を職員間で共有して支援の向上に繋げました。

イ 職務点検の実施

職務点検シートを活用して目標を持って仕事に臨むことで、自分の課題を意識して仕事に取り組むことができました。

< 職員の研修 >

※外部研修

研修名	主催	期日	参加人数
「福祉サービス 苦情解決セミナー」(オンライン)	埼玉県社会福祉協議会 埼玉県運営適正化委員会	10月5日	1名
「埼玉県サービス管理責任者等更新研修」(オンライン)	埼玉県	1月21日	1名
動画で学ぶ発達障害障害 「子育てストレスをちょこっと減	埼玉県発達障害総合支援センター	1月27日	1名

らすコツ」(Web 配信)			
虐待防止マネージャー研修会 (Web 配信)	全国社会福祉協議会	2月24日	1名

※内部研修

研修名	期日	参加人数
「障害者虐待防止法の理解と対応」 読み合わせと支援の振り返り	12月17日	6名
ペアレントトレーニングについて	9月27日	3名

(4) リスク管理

ア 災害対策

- (ア)地震、火災、水害、防犯などの避難訓練を毎月実施しました。隣接のすみれ保育園とも連携を取り、一緒に避難訓練を行いました。また、マニュアルを見直し、避難の仕方などの確認を行いました。
- (イ)保護者会で災害時のマニュアルや対応の仕方について保護者へ説明をしました。幼稚園と併用していて避難訓練を行う日に利用していないお子さんもいるため、訓練の内容などを知る機会となりました。
- (ウ)目の届く場所にマニュアルの掲示をしたり、避難訓練前にマニュアルの再確認を行いました。緊急時に慌てずスムーズに動けるように今後も定期的な確認を行っていきます。

イ 安全確保

- (ア)子ども達が活動する場所や使用する物品の安全点検を定期的に行いました。必要に応じて補修や取り替えを行い、安全に子ども達が過ごせるように努めました。
- (イ)ヒヤリハット事例は少ない件数でしたが、事例をもとに職員間でどのような時が危険か共有をして支援をすることができました。

ウ 個人情報の保護

個人情報の使用同意書を保護者の方に記入してもらい、職員間で情報を共有しました。写真を撮る機会が多いため、写真や映像を撮る時にその都度確認し、安全に使用できるように努めていきます。

(5) 感染症防止対策

ア 健康・衛生管理

子ども、職員ともに検温や体調チェックを行ったり、手指や器物の消毒を徹底しました。特に、子どもの玩具には細かいものがあるため、遊びに入る前に消毒を行うように注意しました。また、マスクの着用を無理しない範囲で練習を行い、着用できる子どもが増えました。

イ 環境の調整

子どもが密集しないように活動内容を考えながら支援しました。また、室温

を調節しながら、室内の窓は少し開け、換気扇をつけたり空気清浄機を使用して換気を行いました。

ウ 情報周知、子どもへの伝え方

新型コロナウイルスに関する情報については、その都度職員へ周知しました。また、保護者に対し、園の対応について、体調等が悪化した時や周りに陽性者が出た時の自粛期間、再開の目安について、定期的に通知しました。子どもへは、コロナウイルスをアニメのキャラクターに例えるなどして分かりやすいように伝えました。

エ 感染状況

新型コロナウイルス感染予防の対策を講じていましたが、3月7日に陽性者が2名（園児1名 職員1名）発出しました。保健所の指示を仰ぎ、久喜市や法人本部と相談し、翌日3月8日～11日までを休園としました。その間に園児1名の感染が分かりましたが、陽性者は重症化することはありませんでした。

（6）地域交流

ア 地域の関係機関との連携

保健センターや久喜市の子ども未来課、支援センター等の関係機関と連携を取り、情報を共有しました。また、併用をしている子どもが通園している園とは定期的に訪問や電話で連絡を取り合い連携に努めました。

イ ひよこ教室、すみれ保育園との交流

すみれ保育園の園児とは、園庭での遊びの中で関わりを持つことはありましたが、新型コロナウイルス感染予防のため交流活動の機会を持つことはできませんでした。ひよこ教室との交流も同様です。

（7）事業運営（収益の向上）

ア 空席のカバー

併用をする子どもが利用しない日を有効活用できるように、定員より多く受け入れました。また、報酬単価が昨年度より上がったこともあり、収益は増えました。子どもの安全を確保できる体制づくりをしながら、今後も収益の向上に努めていきたいと思えます。

イ のぞみ園のアピール

地域のイベントには、新型コロナウイルス感染防止のため中止となり地域へのアピールができませんでした。今後もこのような状況が考えられるため、SNSや法人のHPなどで情報の発信、アピールをしていきたいと思えます。

ウ タブレットを利用した子どもへの支援

タブレットを使用しての個別活動を行いました。動物や昆虫のキャラクターが次々に出てくるところを指で押すなどのアプリを使って注視・追視の訓練や、集中して座る時間を作りました。楽しみながら課題に取り組みました。ブルーライトの影響などのデメリットもあるため、時間を決めながら行っていきたいと思えます。

(8) その他

建物や設備の維持管理

建物や備品の老朽化により、不具合が出てきて修繕、交換する頻度が多くありました。引き続き日常の点検を行いながら安全に子ども達が過ごせるように管理をしていきたいと思えます。

区 久喜市ゆう・あい 事業報告

令和3年度の事業計画に基づいて以下の事業を行いました。

1 実施事業

(1) 定員と現員

令和4.3.31現在

事業名	定員	現員
生活介護	定員20名	20名（男性14名、女性6名）

(2) 利用者の状況

ア 年齢構成

区分	10代	20～24	25～29	30代	40代	50代	60代	平均
男	0	2	6	4	1	1	0	30.4歳
女	0	0	1	2	3	0	0	37.6歳
計	0	2	7	6	4	1	0	32.6歳
%	0	10	35	30	20	5	0	100

イ 障害支援区分

区分	区分3	区分4	区分5	区分6	計	平均区分
男	0	2	5	7	14	5.4
女	0	2	1	3	6	5.2
計	0	4	6	10	20	5.3
%	0	20	30	50	100	—

ウ 療育手帳及び身体障害者手帳の所持状況

区分	療育手帳						身体障害者手帳						
	㊦	A	B	C	なし	計	1級	2級	3級	4級	5級	なし	計
男	13	1	0	0	0	14	0	0	1	0	0	13	14
女	3	2	0	0	1	6	2	1	1	0	0	2	6
計	16	3	0	0	1	20	2	1	2	0	0	15	20
%	80	15	0	0	5	100	10	5	10	0	0	75	100

エ 利用率の状況

月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所日数	21	19	22	21	22	21	22	21	21	20	19	22	251日
延利用者数	403	355	403	400	405	394	401	390	391	372	346	412	4,671人
利用率	96.0	93.4	91.6	95.2	92.0	93.8	91.1	92.9	93.1	93.0	91.1	93.6	93.1%

(3) 職員体制

職種	人数	備考
施設長	1	正規職員（サービス管理責任者）
主任	1	正規職員
生活支援員	11	正規職員3名

		契約職員 1 名 契約短時間職員 7 名
生活支援員兼事務員	1	定年再雇用
看護師	1	常勤契約職員（法人内他事業所兼務）
計	15 名	

2 重点実施事項

(1) 重度障害者支援加算の取得

今年度より重度障害者支援加算を申請し、対象利用者16名のうち10名の利用者が加算取得を開始しました。更に5月に支援員2名が強度行動障害支援者養成研修を受講し、16名全員の加算を取得することができるようになりました。また12月に利用者1名が認定調査により、重度加算の支給決定を受け、1月から合計17名の重度障害者支援加算を取得し、収入アップにつながりました。

(2) 業務の改善

職員の役割を見直しました。また、ノートパソコンを1台購入しサーバーを設置、記録をPC入力にすることで、業務の軽減につながりました。

(3) 職員の資質向上と活動の充実

多岐にわたるオンライン研修や web 配信の研修に参加しました。研修を受講した職員が、施設内研修の講師となり、各職員にフィードバックしました。

3 事業報告

(1) 利用者支援

ア 日常生活支援

(ア) 食事

各利用者の食形態に沿った刻みやとろみ剤を使用して提供しました。自助具スプーンや変形皿を使用し、職員が補助しながら自力で食べられるよう支援しました。

(イ) 排泄

支援の必要な利用者には定時誘導を行い、サインが出せる利用者には確認や声掛けをし、自発的に行動できるよう支援しました。

(ウ) 着脱衣等

排泄時の衣類の着脱や靴の脱ぎ履きは、自分でできる範囲のことは自分でやってもらい、できない部分をサポートし、自立を促しました。

イ 社会生活支援

(ア) 社会体験活動や季節の行事については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を考慮し中止にしました。文化活動では、音楽活動や創作活動、クラブ活動の充実を図り、創作活動で取り組んだ作品を絵画展に出展するなどして、社会参加にもつながりました。

音楽活動	障害者への音楽指導を行っている講師による、音楽療法の手法を取り入れた音楽活動や合奏（コロナの感染状況を考慮して2回実施）
創作・文化活動	創作、マスクングテープ創作、絵描き、本読み、さをり織りなど

クラブ活動	スポーツクラブ：公園散策、久喜けいわ機能訓練棟で運動 クリエイトクラブ：絵画や工作を取り入れた壁面制作、飾り付け リラックスクラブ：少人数で、プロジェクターを使用してリズム体操、スヌーズレン
-------	---

(イ)作業活動

受託作業はコーヒー等の箱入れ、バリ取り、おかずカップ入れ、ダンボールのバリ取り作業に取り組みました。

アルミ缶やダンボール、新聞のリサイクル等の回収作業は、地域の方や市内にある酒屋、ゆうあいの前にあるマルハンやローソンから回収して、仕分け作業を行いました。また、新規のダンボールの回収先を2件増やし、更に単価の高い買い取り業者を探し、納品先を変更したことで、収入アップにつながりました。

自主製品の布製品は、定期でボランティアをしてくださる方からアドバイスをいただきながら、より丁寧に丈夫な作品が完成しました。地域行事等が新型コロナウイルス感染症の影響で中止となり、自主製品を販売する機会が大幅に減少しましたが、保護者からの要望もあり、5月と12月に各事業所から製品を集い、保護者や近隣に向けた自主製品販売会を実施しました。

(班別活動内容)

ハートワーク班	バリ取り、缶つぶし、牛乳パックの椅子作り、本読み、音楽活動、創作、マスキングテープ創作、運動、足湯など
ハンドワーク班	受託作業、自主製品の製作と販売、カレンダー製作、広報誌作成など
フットワーク班	アルミ缶・新聞紙・ダンボール等の回収・選別作業、近隣清掃など

(作業内容と工賃)

作業内容	収入額	諸経費	差益額
リサイクル作業	239,285 円	67,232 円	172,053 円
自主製品販売	181,300 円	67,424 円	113,876 円
受託作業	72,792 円	0 円	72,792 円
小 計	493,377 円	134,656 円	358,721 円
前年度繰越額	3,003 円	—	3,003 円
合 計	496,380 円	134,656 円	361,724 円

(工賃支給額)

※ 3月31日分は令和4年4月30日に支給

支給日	10月31日	3月31日	合計
工賃支給額	137,400 円	223,000 円	360,400 円
平均支給額	6,870 円	11,150 円	9,010 円
最高支給額	7,800 円	13,000 円	—
最低支給額	800 円	0 円	—

翌年度へ繰越 1,324 円

ウ 余暇活動支援

新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、外出を控え事業所内で楽しめる余暇活動を行いました。

お盆日課	13日、16日、通常日課開所	
季節行事	休日開所にて、事業所内(ミニ運動会、ハロウィン、クリスマス、お正月、お花見)	
余暇外出	自主製品材料の買い物 休日開所(きっちんこすもす外食)	5, 7, 11月 9月

エ 健康支援

日常的な健康観察、個別プログラムに基づいた機能訓練やストレッチ、散歩などの有酸素運動、足湯や手浴などの血行促進やリラクゼーション活動など、それぞれ必要に応じた健康支援を行いました。

日常健康管理	毎朝の健康チェック、体重、血圧等のバイタル測定(毎月1回)、発作・食事量・排泄等の記録、看護師による健康チェックなど	
健康診断	協力医療機関である東鷲宮病院にて、3班に分かれて実施 基本内容のほか、希望により自己負担にて検査項目を追加	
嘱託医による健康相談・指導	嘱託医相談毎月1回 第3木曜日 新型コロナウイルスワクチン接種 インフルエンザ予防接種 健診結果や健康についての個別相談会の実施(担当職員による)	

宮代特別支援学校による訪問指導、久喜市食生活改善推進委員による食事指導、久喜市歯科医師会の協力による歯科検診とブラッシング指導については、新型コロナウイルス感染を考慮し中止しました。

オ 虐待防止対策

- (ア)チェックリストを活用し、事業所の課題や傾向を探り、それに基づいた研修を職員会議で行いました。
- (イ)虐待防止に関するオンライン研修や、法人内研修に参加し、権利擁護に対する意識を徹底しました。

(2) 働きやすい職場づくり

ア 業務改善

- (ア)同一賃金同一労働を踏まえ、各職員の業務を見直し改善しました。
- (イ)ノートパソコンを1台購入し、サーバーを設置しました。作業日誌やケース記録などをPC入力にしたことで、業務の効率化を図ることができました。

イ 年次有給休暇の取得促進

希望の有給休暇が取得できるよう、勤務表作成前に職員の希望を聞き、その希望に沿うよう勤務表を調整したことで、各職員が年間5日以上の子次休暇を取得することができました。

(3) 人材育成

ア 専門性の向上

- (ア)OJTや内部研修を通して、職員のスキルの向上を図りました。
- (イ)オンラインを活用した外部研修に積極的に参加し、専門性や多様な知識を

身につけました。

イ グループ会議の充実

作業班会議を行い、現状の課題など積極的な意見交換を行いました。チーム内で同じ認識を持ち、支援の質を高めることができました。

ウ 職務点検活動の実施

職務点検シートを活用し、3つの目標を掲げ、それに沿った支援や業務に取り組みました。

①外部研修

日付	研修名	主催者名	参加者名
4月17,24日	強度行動障害支援者養成研修（基礎）	藤仁館医療福祉カレッジ	秋山
5月15,22日	強度行動障害支援者養成研修（基礎）	藤仁館医療福祉カレッジ	江森
6月18日	行動障害と不適切な支援について （動画配信）	埼玉県福祉部	職員12名
6月30日	感染予防基礎研修（動画配信）	埼玉県社協	職員7名
7月27日	令和3年度社会福祉施設災害研修 （動画配信）	埼玉県社協	立野
10月12日	日中活動支援部会「命を守る。今、わたしたちにできることは？」（動画配信）	埼玉県発障協	秋山
10月15日	日中活動支援部会全国大会(秋田大会) （動画配信）	日本知的障害者福祉協会	新井
11月5日	中堅職員研修会（オンライン）	埼玉県発障協	真辺
11月9日	リスクマネジメント研修（動画配信）	埼玉県社協	江森,立野, 新井
12月15日	福祉の現場に必要な法律の基礎知識 研修 （動画配信）	埼玉県社協	新井
1月14日	個人情報保護研修（動画配信）	埼玉県社協	新井
1月27日	施設長及び幹部職員研修会（動画配信）	埼玉県発障協	新井
2月21日	「選べる」福祉職員組織力向上研修 ～Cコース-ビルディング～（動画配信）	埼玉県社協	立野,秋山, 新井
3月4日	人材育成に必要な本当のことは。 ～人育ては自分育て・人の成長は自分の成長～ （動画配信）	埼玉葛北地区地域自立支援協議会 久喜市自立支援協議会	新井
3月7日	令和3年度埼玉県障害者虐待防止・権利擁護研修 （動画配信）	埼玉県福祉部	新井

②内部研修

日付	内容	参加者
8月3日	虐待防止研修（あゆみの郷合同）	江森、立野、新井
10月22日	水害研修	江森、立野、真辺、秋山、佐藤、伊藤、染谷、池田、木村、本多、新井

12月17日	虐待防止研修	江森、立野、真辺、秋山、佐藤、伊藤、 染谷、池田、木村、本多、新井
--------	--------	--------------------------------------

(4) リスク管理

ア 安全管理

(ア) 毎年建築基準法に基づく、建築物・建築設備定期点検(業者依頼)を実施し、指摘事項はありませんでした。また定期的に建物内外を目視し、危険個所が無いか確認しました。

(イ) 毎月、公用車を定期点検し、事故防止に努めました。

イ 防災訓練の実施

火災想定2回(内1回は消防署立ち合い)、水害想定1回の防災訓練を実施しました。また、Jアラート(地震想定)訓練を1回行いました。福祉避難所開設訓練では、新型コロナ感染対策も兼ねた訓練に参加しました。内部研修では水害研修を行い、職員全員が水害対策の知識を身につけることができました。

ウ 守秘義務と個人情報保護

利用者の個人情報については、鍵の掛かるロッカーに保管し、漏洩しないよう十分注意しました。また、個人情報保護研修にも参加し基礎知識を学びました。

(5) 感染症防止対策

感染防止

感染防止基礎研修に参加し、正しい情報を得て、予防への意識を高めました。事業所内では、手指消毒の徹底、こまめな換気と1日3回の消毒も毎日行いました。食事支援や歯磨き支援ではフェイスシールドを着用すると共に、マスク着用については、職員だけでなく、利用者へのマスク支援にも取り組み、多くの利用者のマスク着用が定着しました。

(6) 地域交流

ア 美化活動

地域への奉仕活動として、清掃活動に取り組み、利用者と周辺のゴミ拾いを定期的に行いました。

イ 広報の作成

利用者の作成による「ゆう・あい通信」を年3回発行し、利用者と一緒に近隣に配布する他、区長を通して地域内の回覧をお願いし、地域の方へゆうあいの活動を紹介しました。

ウ 自主製品の紹介と販売

自主製品の販売会を年2回実施しました。「自主製品販売会のお知らせ」を利用者が作成し、地域内の回覧や近隣、久喜市役所などに、利用者と共に配布しました。販売会当日はチラシを見た地域の方の来場もあり、交流を深めることができました。

エ 各イベントへの参加

新型コロナウイルスの感染状況によりイベントは全て中止となりました。

オ 見学者、実習生、ボランティアの受入れ

新型コロナウイルスの感染状況を見ながら、音楽療法を取り入れた音楽活動ボランティア1名、縫製ボランティア1名に活動補助のご協力をいただきました。

ボランティア（定期）	縫製・作業補助、音楽活動等	2名、延12日
介護等体験		0名、延0日

（7）事業運営

ア 重度障害者支援加算の取得

重度障害者支援加算を取得するため、4名の職員が強度行動障害支援研修を受けました。17名の利用者が加算対象となり、収入アップにつながりました。

イ 利用率の向上

定員を超えた利用者を増やすことはできませんでした。新型コロナウイルスの感染拡大により、通所を自粛する利用者もありましたが、在宅支援を行うことで利用率を90%以上確保することができました。

ウ 時間延長の受入れ

原則、利用時間の前後1時間程度の範囲で、要望に応じて実施しました。

月別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
利用延人数	8	11	6	1	5	2	5	5	1	1	0	15	60人

エ 休日開所の利用

新型コロナウイルス感染予防のため、外出を避けて室内で楽しめるレクリエーションを行い余暇の充実を図りました。

月別	4	7	8	9	10	11	12	1	2	合計
利用人数	13	20	11	14	11	10	12	14	12	117人

オ 送迎サービスの実施

公用車2台を使用して、朝と夕2往復の送迎サービスを行いました。その他、家族の都合や悪天候により、送迎の希望があった時は、適宜送迎を実施しました。

カ 日中一時支援事業の実施

日中一時支援の希望はありませんでした。

X 久喜市あゆみの郷 事業報告

令和3年度事業計画に基づいて以下の事業を行いました。

1 実施事業

(1) 定員と現員

令和4.3.31現在

事業名	定員	現員
生活介護	定員15名	17名(男性12名、女性5名)
就労継続支援B型	定員15名	18名(男性10名、女性8名)

(2) 利用者の状況

ア 年齢構成

	10代	20代	30代	40代	50代	60代～	平均
生活介護	0	7	4	3	0	3	39.5歳
就労継続	1	8	4	2	3	0	33.9歳
計	1	15	8	5	3	3	36.7歳

イ 障害支援区分

	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	未判定	計
生活介護	0	0	3	4	6	4	0	17人
継続B型	0	2	6	4	0	0	6	18人
計	0	2	9	8	6	4	6	35人

ウ 療育手帳の所持状況

	㊤	A	B	C	なし	計
生活介護	9	4	3	0	1	17人
継続B型	1	7	6	4	0	18人
計	10	11	9	4	1	35人

エ 利用率の状況

(ア) 生活介護

月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
開所日数	22	18	22	22	21	21	21	21	20	20	18	22	21日
延利用者数	314	238	278	274	269	255	260	290	284	268	222	315	272人
利用率	88	88	84	83	85	81	83	92	95	89	82	95	87%

(イ) 就労継続B型

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
開所日数	21	19	22	21	22	20	22	21	20	19	19	22	21日
延利用者数	290	290	348	305	276	266	301	313	300	262	245	323	293人
利用率	100	101	106	97	84	89	91	99	88	92	86	98	94%

(3) 職員体制

職 種	配置人数	備 考
施設長	1	サービス管理責任者兼務
主任生活支援員	1	生活介護（運転業務兼務）
生活支援員（生活介護）	6	運転業務兼務 2名
生活支援員（就労継続）	2	
目標工賃達成指導員	1	就労継続支援B型
看護師	1	生活介護
事務員	1	
運転員	2	
計	15	

2 重点実施事項

(1) 権利擁護

個々のニーズや状況に対応した支援を行い虐待防止に意識を高めた支援を行う事を重点事項に掲げたが7月に虐待事案が発生する結果となりました。その後、職員一丸となり虐待防止、支援力の向上に力を入れ取り組みました。

(2) 事業収益の向上

重度加算取得に向けた準備を行いました。障害支援区分の再判定時に支援の実態を伝えることでの的確な支援区分の判定につながりました。

(3) 感染予防対策

感染予防対策の徹底をしました。日々の体調チェック、館内の消毒、集団のワクチン接種など感染対策を行った結果、感染者は確認されませんでした。

3 事業報告

(1) 利用者支援（生活介護・就労継続支援B型 共通事項）

ア 日常生活支援

利用者それぞれのニーズや状況によって、きめ細かな支援を行いました。問題が発生した際もすぐに対応策を検討して、必要に応じて家族に連絡を取りました。その結果利用者アンケートを実施しても支援に満足しているという意見が多く聞くことが出来ました。

イ 社会生活支援

(ア)部活動、行事等に関しては、感染予防対策により、ほぼ中止となりました。

利用者、家族からは、やって欲しいとの要望はありますが、引き続き感染状況を確認しながら実施の有無を判断して行きます。

(イ)利用者自治会活動を行っています。自分達で「考え」「話し合い」「決めて」「実行」する取り組みを行いました。多くの行事は中止となりましたが。3月には自治会会長選挙を行いました。選挙は、久喜市より実際の投票箱を借りて行う事で多くの利用者から好評でした。

ウ 健康管理に関する支援

(ア)健康診断、保菌検査を行う予定でした。保菌検査（1回）は行いましたが、

利用者の健康診断は、実施時期が市中の感染拡大と重なり中止となってしまいました。

(イ) 家族の承諾を得たうえで職員の同行を必要とする利用者には通院同行を行いました。日中の様子を正確に情報交換することによって受診の効果が多く出ています。

エ 権利擁護に関する支援

7月に虐待事案が発生する結果となりました。その後、管理者、職員が現状の支援体制や支援力の課題を受け止め、虐待防止に向けた支援力向上の研修、課題の多い利用者への支援会議、呼称、言葉遣いなど細部にわたる取り組みを行いました。また、法人本部職員が常駐し、虐待防止の取り組みが強化されました。

現在は、多くの改善がなされた状況ですが、今後は虐待防止の意識が継続されるように繰り返し確認や学習をしていきます。

(2) サービスの提供

ア 生活介護

(ア) 日常生活支援

個々の行動特性や相性など加味して落ち着いて作業が出来るように、パーテーション、着座場所等の工夫をしました。また、課題の多い利用者対応として、利用者本人の強みを生かした支援の検討を行い実践に活かしました。

年齢、身体機能を考慮して作業班のメンバー構成を変更しました。室内を中心にゆっくり作業に取り組める班と缶やペットボトルのリサイクル作業、農耕作業とアクティブに活動できる班を細分化しました。

(イ) 作業活動支援

生活介護での内職作業はコロナ禍の影響をあまり受けず途切れなく順調に納入されました。農耕作業による収穫した野菜は、施設前に設置した無人販売所で販売を行いました。

毎月の工賃収入額は下表のとおりです。

月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月
収入額	60,861円	60,899円	73,401円	53,214円	65,256円	61,461円
10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
78,567円	74,910円	79,305円	68,230円	61,870円	59,768円	422,650円

(ウ) 社会活動支援

多くの行事は、新型コロナウイルス感染予防のため実施できませんでした。以前、各誕生日行っていた外食はテイクアウトに形を変えて実施しました。

イ 就労継続支援B型

(ア) 社会生活支援

課題が多く、複数の機関で支援している利用者に対して、日頃から関係者で連携とりながら支援を行いました。安定して通所出来るようになりました。

施設外就労で「きっちんこすもす（喫茶店）」のホールで実習をしています。ホールでの作業に適した整容のアドバイスを通じて、日々の身だしなみなど

の改善が見られるなどの効果がありました。

(イ) 一般就労への支援

就職を希望する、聴覚と知的障害を併せ持つ利用者に対して、企業見学を行い、実習を行う予定でしたが、本人の障害特性と会社の環境が合わず行う事が出来ませんでした。今後も一般就労のチャレンジを続けていく予定です。

(ウ) 作業活動支援

工賃収入が下がりました。コロナ禍の中、景気に左右されない一部の企業からは例年同様作業を受注出来ましたが、全体的には受注数が減少しており前年度の作業工賃を維持することは出来ませんでした。しかし、大口の内職受注業者と交渉して令和4年度から2～5倍の作業単価の増額をする予定です。

毎月の工賃収入額は下表のとおりです。

月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月
収入額	198,178円	179,680円	245,088円	245,429円	174,693円	189,070円
10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
184,959円	197,511円	290,764円	186,604円	171,009円	182,602円	2,445,587円

(3) 働きやすい職場づくり

ア 個々の職員が日々必要な情報共有と、個々の利用者の支援方針を一致して同じ方向に向かえるような支援体制を目指し事業別会議、主任会議など行いました。しかし、フルタイムの職員と短時間職員との情報に差が生じ、課題が残りました。今後も改善に努めます。

イ 個々の職員との面談を行い不安感や課題の改善に努めました。

(4) 人材育成

人材育成は、内部研修を中心に虐待防止や支援スキルの向上に係る研修を中心に実施しました。

ア 内部研修（事業所外講師実施分）

研修名	講師	日付	参加人数
利用者の特性や理解の研修	中村施設長	令和3年8月17日	11人
虐待防止研修	袴田主査	令和3年9月3日他	12人
アンガーマネジメント研修	袴田主査	令和3年10月13日	12人
強度行動障害支援研修（講義・演習）	金子事務長	令和3年12月22日 他	12人

イ 外部研修

研修名	主催者	日付	参加者
グループスーパービジョン研修	埼玉葛北・久喜地区サービス管理責任者連絡会	令和3年8月16日他 5回（オンライン研修）	川崎
福祉サービス苦情解決セミナー	埼玉県社会福祉協議会	令和3年10月5日	桜井

ミナー		(オンライン研修)	
ジョブコーチ基礎研修	東松山就労支援センター・埼玉県就労支援ネットワーク	令和3年12月15,16日	守嶋
虐待防止マネージャー研修	全国社会福祉協議会	令和4年1月24日～ (オンライン研修)	桜井
施設長及び幹部職員研修	埼玉県発達障害福祉協会	令和4年1月27日 (オンライン研修)	桜井
強度行動障害研修 (基礎・実践)	教育・研修センターようき	令和4年2月20日他 (オンライン研修)	中村
管理者及び中堅職員研修 会～人材育成～	埼玉葛北・久喜地区サービス管理責任者連絡会	令和4年3月4日 (オンライン研修)	桜井
埼玉県虐待防止権利擁護 研修	埼玉県障害者支援課	令和4年3月4日～ (オンライン研修)	桜井他

(5) リスク管理

避難訓練を3回実施しました。想定は火災だけではなく、地震や竜巻などの災害も想定して実施しました。

(6) 感染予防対策

ア 市中、法人内の感染状況に応じた感染予防対策を実施しました。

イ 新型コロナウイルスワクチン接種を希望する利用者に対して、久喜市いちよの木、久喜市ゆう・あいと連携して3回の集団接種を行いました。

(7) 地域交流

ア 地域行事、あゆみの郷まつりは、新型コロナウイルス感染予防の為すべて中止となりました。

イ 施設の前にアルミ缶置き場を設置していましたが更に段ボール置き場を設置し地域の自治会を通じPRを行いました。たくさんの方が毎日のように持ってきてもらっています。

ウ 「あゆみだより」を年3回発行しました。

エ 社会福祉士、保育実習の受入れは、感染状況を確認しながら3校を受けました。

オ ボランティアの受入れは、感染状況を踏まえた受入れを行いました。植栽や畑の管理等は、利用者と接する機会が少ないので通年で行っていただきました。

(8) 事業運営

ア 事業収益の向上

(ア)新型コロナウイルス感染で利用自粛をする利用者、がん等の疾病で長期休みなどの理由から利用率の伸びはありませんでした。

就労継続B型の作業工賃は、全体は下がったものの平均は1万円を超えています。

(イ)障害区分認定時の職員立ち合いの協力等を行い重度加算取得に向けて準備をしました。

イ 経費の削減

燃料費の節約を目標に計画をしたが、原油価格の急激な上昇を受け節減は出来ませんでした。